

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-6

< 第10週 >

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した / その他最新動向



注目すべき感染症
P.7-11

< インフルエンザ >

定点当たり報告数は2013年第4週にピークを迎え、その後は減少が続いて第10週は10.37となった



病原体情報
P.12-14

感染性胃腸炎関連ウイルス 2012/13シーズン



速報

< 今週は該当記事はありません >



海外感染症情報
P.15-21

新種のコロナウイルス感染症について / カンボジアで鳥インフルエンザの患者が発生しました / インフルエンザ



感染症の話
P.22-27

< マラリア >

世界的に重要な感染症であり、最近日本国内では新たに治療薬が認可され、予防投薬の適応も拡大された



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(10週)
P.28-33



10週のデータ
P.34-47



発生動向総覧

< 第10週コメント > 3月13日集計分

全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核335例

3類感染症

細菌性赤痢5例 菌種: *S. flexneri*(B群)2例_感染地域: 京都府1例、インド1例
S. sonnei(D群)3例_感染地域: 福岡県2例、インドネシア1例

腸管出血性大腸菌感染症14例(有症者10例、うちHUS なし)

感染地域: 国内14例

国内の感染地域: 岩手県2例、千葉県2例、東京都2例、新潟県1例、長野県1例、三重県1例、兵庫県1例、福岡県1例、熊本県1例、不明2例

年齢群: 5歳(1例)、10代(2例)、20代(2例)、30代(3例)、40代(1例)、50代(1例)、60代(1例)、70代(3例)

血清型・毒素型: O157 VT2(9例)、O26 VT2(1例)、O91 VT1(1例)、O145 VT1(1例)、O157 VT1・VT2(1例)、その他・不明(1例)

累積報告数: 126例(有症者83例、うちHUS 6例、死亡なし)

腸チフス2例 感染地域: 東京都1例、ミャンマー1例

4類感染症

E型肝炎1例 感染地域: 青森県_感染源: レバー/猪鍋

チクングニア熱2例 感染地域: インドネシア2例

デング熱4例(デング熱3例、デング出血熱1例)

感染地域: タイ2例、インド1例、タイ/インド1例

レジオネラ症13例(肺炎型12例、ポンティアック型1例)

感染地域: 北海道1例、青森県1例、岩手県1例(温泉)、千葉県1例、長野県1例、三重県1例、岡山県1例、広島県1例、福岡県1例、熊本県1例、宮崎県1例(温泉)、神奈川県/静岡県1例(温泉)、国内(都道府県不明)1例

年齢群: 10代(1例)、50代(2例)、60代(3例)、70代(3例)、80代(2例)、90代(2例)

5類感染症

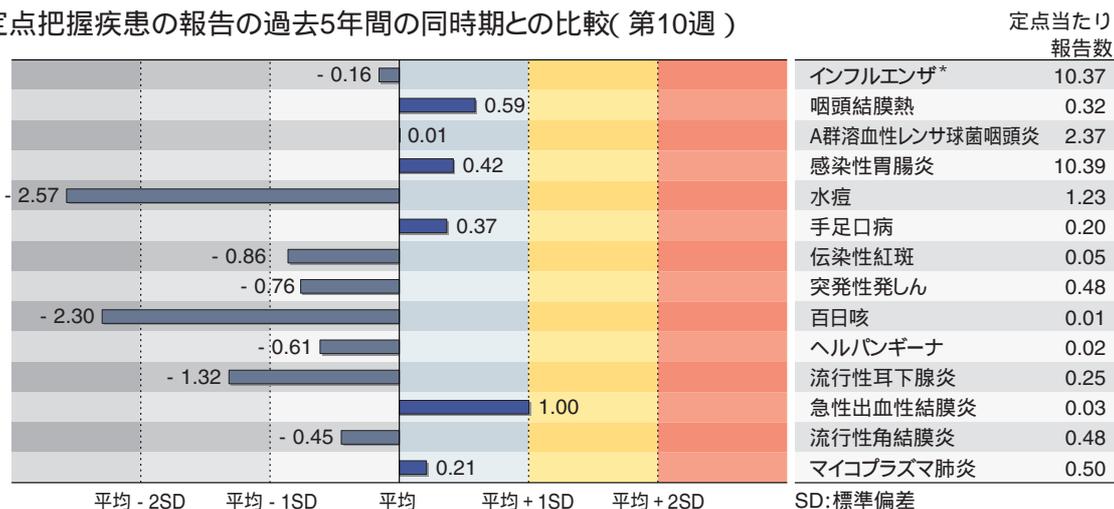
- アメーバ赤痢14例(腸管アメーバ症11例、腸管外アメーバ症3例)
 感染地域: 東京都3例、千葉県1例、愛知県1例、国内(都道府県不明)7例、国外(国不明)1例、国内・国外不明1例
 感染経路: 経口感染4例、性的接触4例(異性間2例、同性間2例)不明6例
- ウイルス性肝炎1例 B型__感染経路: 性的接触(同性間)
 急性脳炎3例 インフルエンザウイルスA型1例__年齢群: 10代
 ロタウイルス1例__年齢群: 1歳
 病原体不明1例__年齢群: 1歳
- クロイツフェルト・ヤコブ病2例
 孤発性プリオン病古典型2例
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例
 年齢群: 40代(1例)、50代(1例)、60代(1例)、70代(1例、死亡)
- 後天性免疫不全症候群12例(AIDS 3例、無症候7例、その他2例)
 感染地域: 国内8例、中国1例、国内・国外不明3例
 感染経路: 性的接触10例(異性間2例、同性間8例)、不明2例
- ジアルジア症1例 感染地域: ネパール
- 先天性風しん症候群1例
 感染地域: 愛知県
- 梅毒15例(早期顕症II期7例、無症候8例)
 破傷風1例 年齢群: 10代
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例
 遺伝子型: *VanC* 2例__菌検出検体: 腹水1例、血液1例
- 風しん241例(検査診断例175例、臨床診断例66例)
 感染地域: 東京都69例、千葉県21例、兵庫県17例、神奈川県15例、大阪府13例、鹿児島県10例、埼玉県9例、静岡県8例、栃木県3例、熊本県3例、福岡県2例、北海道1例、山形県1例、新潟県1例、愛知県1例、三重県1例、滋賀県1例、京都府1例、岡山県1例、広島県1例、香川県1例、国内(都道府県不明)60例、フィリピン1例
 年齢群: 2歳(1例)、5～9歳(2例)、10～14歳(1例)、15～19歳(9例)、20～24歳(34例)、25～29歳(37例)、30～34歳(34例)、35～39歳(38例)、40代(63例)、50代(22例)
 累積報告数: 1,656例(検査診断例1,286例、臨床診断例370例)
- 麻しん12例〔麻しん(検査診断例5例、臨床診断例5例)、修飾麻しん(検査診断例2例)〕
 感染地域: 神奈川県4例、埼玉県2例、東京都1例、愛知県1例、大阪府1例、国内(都道府県不明)2例、中国1例
 年齢群: 0歳(1例)、1歳(2例)、10～14歳(1例)、20～24歳(2例)、25～29歳(3例)、35～39歳(1例)、50代(1例)、60代(1例)
 累積報告数: 60例〔麻しん(検査診断例19例、臨床診断例28例)、修飾麻しん(検査診断例13例)〕

(補)他に腸チフス1例の報告があったが削除予定。また、2013年第9週までに診断されたものの報告遅れとして、細菌性赤痢1例(感染地域:福岡県)、エキノコックス症1例(多包条虫__感染地域:北海道)、急性脳炎7例[インフルエンザウイルスB型1例__年齢群:10代、ロタウイルス1例__年齢群:1歳、病原体不明5例__年齢群:4歳(1例)、5歳(1例)、20代(2例)、80代(1例)]、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例(30代(1例、死亡)、40代(1例)、60代(1例))などの報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第10週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。(*2009年のパンデミックの影響を受けています。)

インフルエンザ

定点当たり報告数は第5週以降減少が続いている。都道府県別では愛知県(27.27)、福井県(21.38)、鹿児島県(21.09)、徳島県(20.97)、広島県(20.66)が多い。

小児科定点報告疾患

RSウイルス感染症の報告数は1,081例と2週連続で減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約75%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別では佐賀県(1.13)、宮崎県(1.03)、山形県(0.97)が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別では石川県(8.21)、鳥取県(5.68)、山形県(5.67)が多い。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別では福井県(17.50)、大分県(17.06)、熊本県(16.04)が多い。

水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では宮崎県(3.81)、沖縄県(3.56)、大分県(3.44)が多い。

手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では沖縄県(1.68)、福岡県(1.38)、島根県(0.96)が多い。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では富山県(0.41)、鳥取県(0.21)、新潟県(0.20)が多い。

百日咳の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では福井県(0.14)、愛媛県(0.08)、新潟県(0.07)が多い。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では長崎県(0.48)、新潟県(0.07)、福岡県(0.07)が多い。

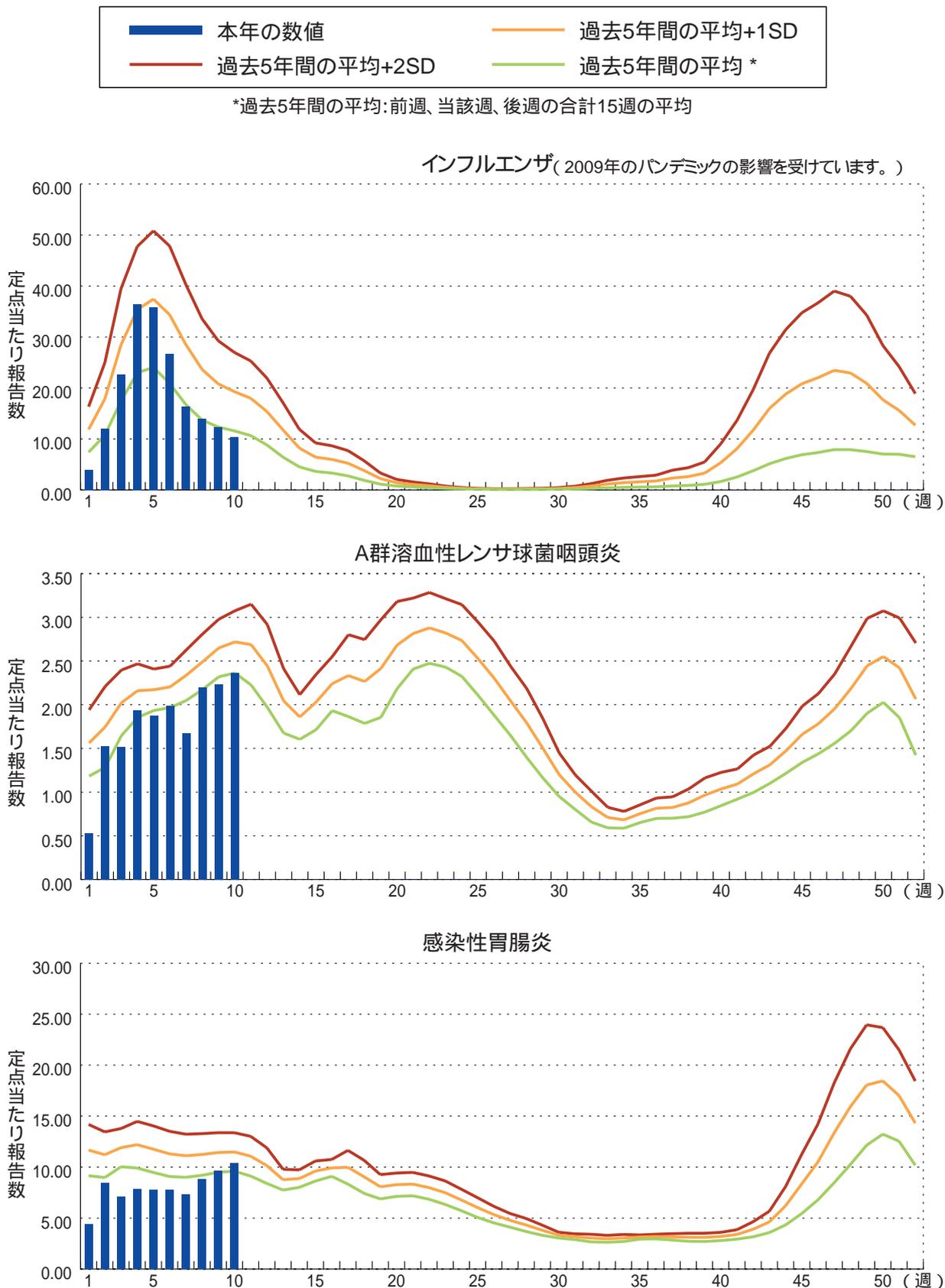
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では山形県(1.40)、福井県(1.14)、秋田県(0.91)が多い。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では埼玉県(1.89)、宮城県(1.58)、青森県(1.17)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2013年第10週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

インフルエンザ

インフルエンザ(Influenza)は、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられている。典型的な発症例では1 ~ 4日間の潜伏期間を経て、突然に発熱(38 以上の高熱) 頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常は1週間前後の経過で軽快するが、いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴である。主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫による飛沫感染であり、他に接触感染もあるといわれている(CDCホームページ: <http://www.cdc.gov/flu/professionals/infectioncontrol/healthcaresettings.htm>)。

インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生が重要である。インフルエンザでは、たとえ感染者であっても、全く症状のない不顕性感染例や、感冒様症状のみでインフルエンザウイルスに感染していることを本人も周囲も気が付かない軽症例も少なくないため、特にヒト - ヒト間の距離が短く、濃厚な接触機会の多い学校、幼稚園、保育園等の小児の集団生活施設においては可能である場合は職員も含めて全員が咳エチケット、手指衛生を実行するべきである(厚生労働省インフルエンザQ&A: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>)。

感染症発生動向調査では、全国約5,000カ所(小児科定点約3,000、内科定点約2,000)のインフルエンザ定点からの報告に基づいてインフルエンザの発生動向を分析している。インフルエンザの定点当たり報告数は2012年第43週以降14週連続して増加して2013年第4週にピーク(定点当たり報告数36.44)を迎え、その後は減少が続いて第10週の定点当たり報告数は10.37(報告数51,190)となった(図1)。都道府県別では愛知県(27.27) 福井県(21.38) 鹿児島県(21.09) 徳島県(20.97) 広島県(20.66) 岐阜県(19.97) 高知県(19.77)の順となっている。45都道府県で前週より減少がみられた(図2)。

図1. インフルエンザの年別・週別発生状況(2003 ~ 2013年第10週)

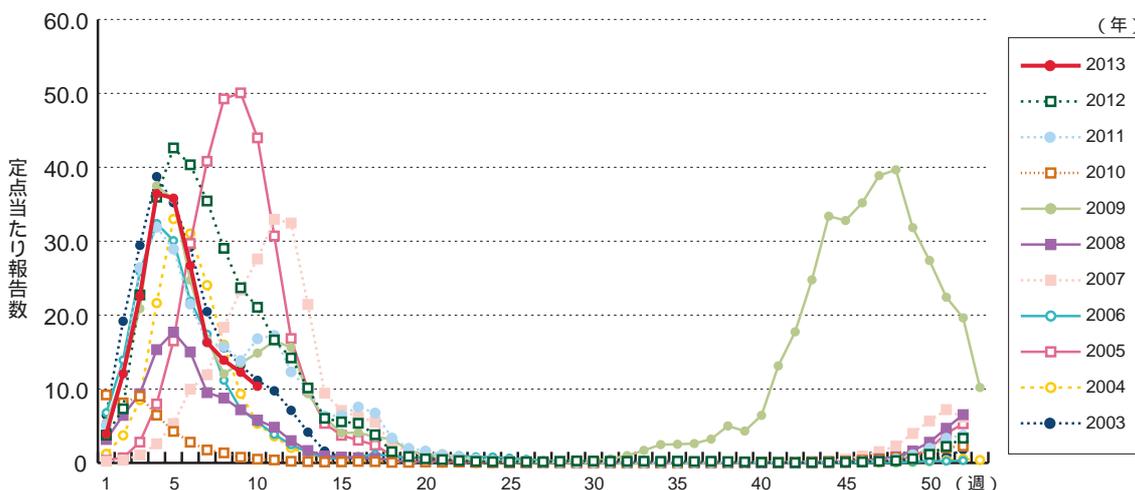
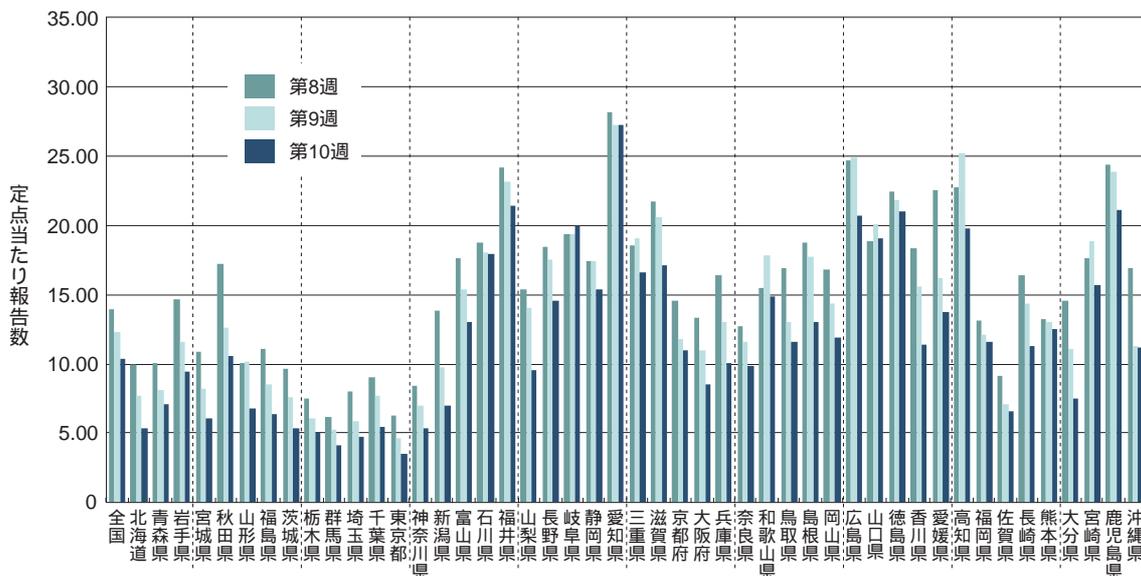
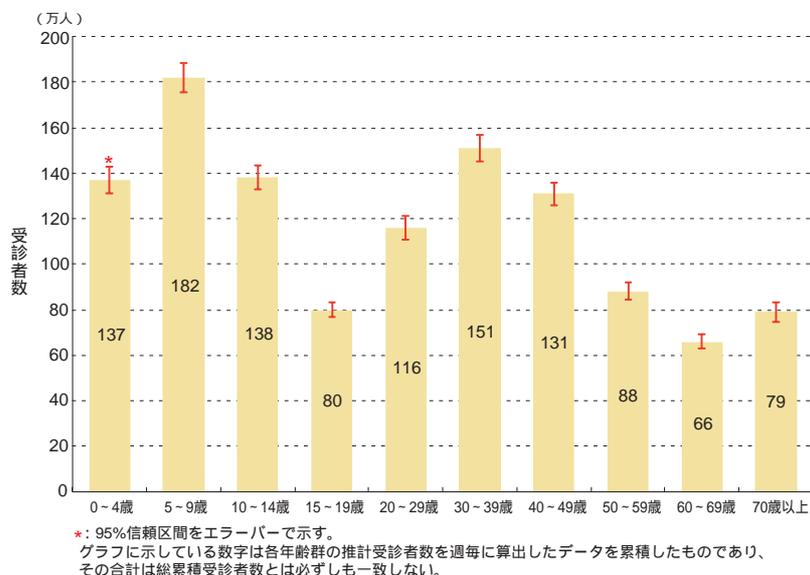


図2. インフルエンザの都道府県別定点当たり報告数の推移(2013年第8 ~ 10週)



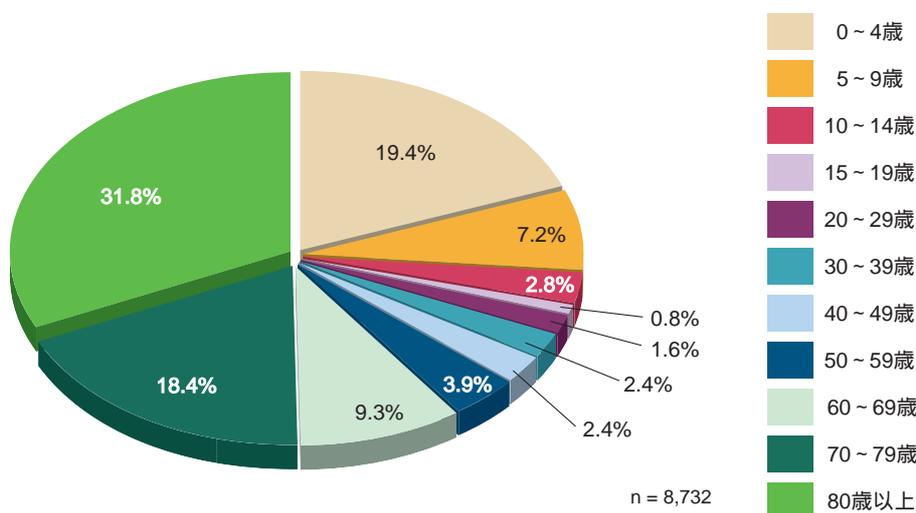
定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約55万人(95%信頼区間: 50万人 ~ 60万人)であり、2012年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約1,180万人(95%信頼区間: 1,150万人 ~ 1,210万人)と1,000万人を上回った。各年齢群の累積の推計受診者数は5 ~ 9歳約182万人、30代約151万人、10 ~ 14歳約138万人、0 ~ 4歳約137万人、40代約131万人、20代約116万人の順であった。70歳以上は約79万人であり、昨シーズンの同時期の累積の推計受診者数(約60万人)以上全て暫定値を上回っている(図3)。

図3. インフルエンザの年齢群別累積推計受診者数(暫定値)
(2012年第36週 ~ 2013年第10週)



全国約500カ所の基幹病院定点からのインフルエンザによる入院患者の報告数をみると、2013年第10週の報告数は433人であり、2012年第36週以降これまでの累積報告数は8,732人となった。累積報告数の年齢群別内訳は、80歳以上2,776人(31.8%)、0~4歳1,693人(19.4%)、70代1,607人(18.4%)、60代812人(9.3%)、5~9歳629人(7.2%)の順であり、60歳以上と9歳以下の入院例が全体の86.1%を占めている(図4)。

図4. インフルエンザ入院患者の累積報告数の年齢群別割合(基幹定点からの報告)
(2012年第36週 ~ 2013年第10週)



インフルエンザの重篤な合併症であるインフルエンザ脳症は、2004年4月より急性脳炎の発生動向調査の一環として報告されるようになった。今シーズンはこれまでに22都道府県から55例(男性28例、女性27例、55例中8例は死亡報告あり)の報告があった。診断週別にみると、2012年第51週以降継続的に報告があり、2013年第3週と第6週に11例と最多の報告数となっており、インフルエンザの報告数が多かった第4週と第5週はそれぞれ10例および5例であった(図5)。年齢は0~84歳(中央値12歳、平均値28.6歳)で、これまでのところ小児では5歳が5例と最も多く、成人では60~79歳の年齢群が12例となっている(図6)。ウイルス型別ではA型42例(76.4%、うちAH1pdm09が0例、AH3が4例)、B型7例(12.7%)、型別不明6例(10.9%)となっており、今シーズンの流行を反映してA型が多数を占めている。

図5. インフルエンザ脳症のウイルス型/亜型別報告数および
インフルエンザの定点当たり報告数週別推移(2012年第36週～2013年第10週)

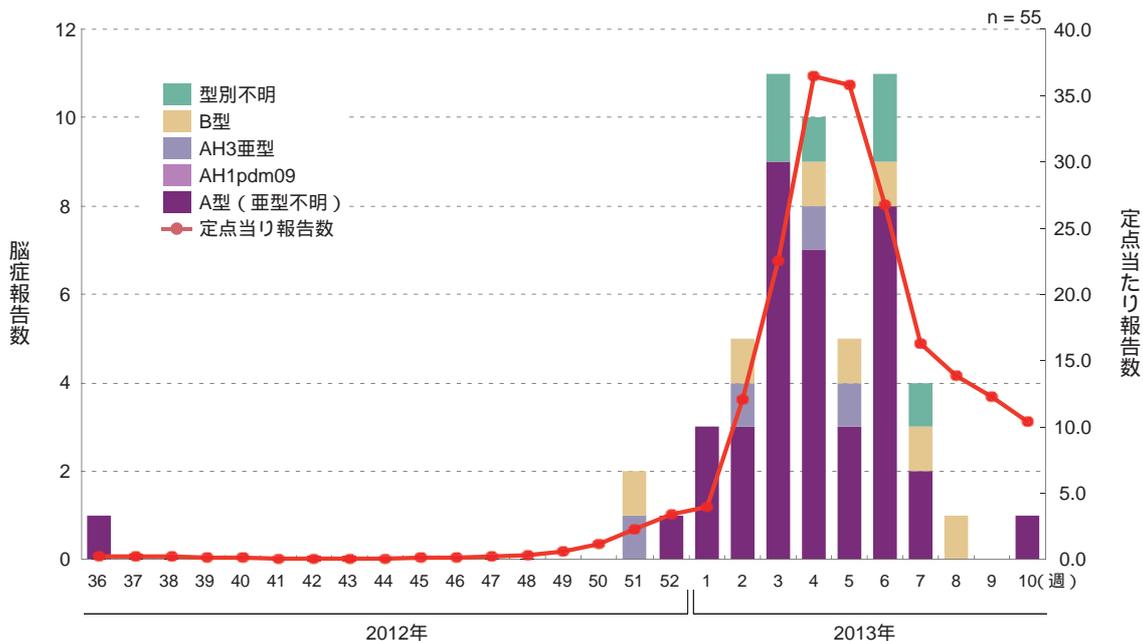
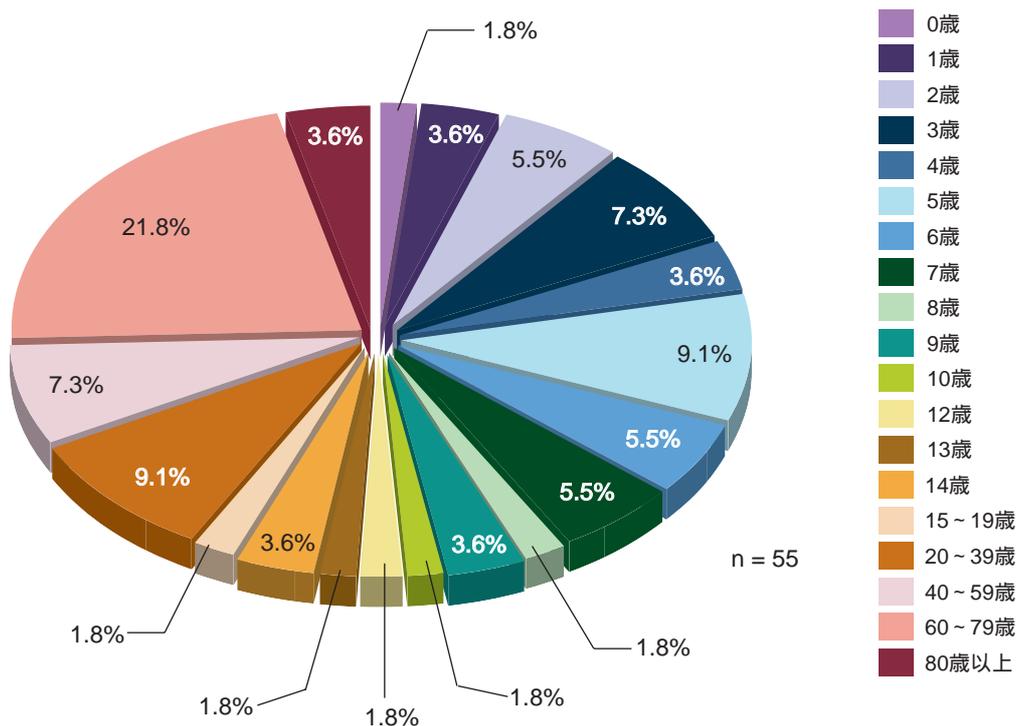


図6. インフルエンザ脳症の年齢群別割合(2012年第36週～2013年第10週)



2012年第36週～2013年第10週までに国内では4,013検体のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、AH1pdm09が86件(2.1%)、AH3亜型(A香港型)3,459件(86.2%)、B型468件(11.7%)とこれまでのところAH3亜型が大半を占めている状態が続いている一方で、直近の5週間をみるとB型の割合が増加してきている。

2013年第5週以降、インフルエンザの報告数は減少が続いているが、中部地方以西では、定点当たり報告数が全国平均値を大きく上回っているところも認められる。全国の基幹病院定点からの入院報告数はこれまでに8,732人となっており、患者発生の中心とは異なった高年齢層の入院報告数が多くなっている。インフルエンザ脳症はこれまでに55例が報告されており、昨シーズンの同時期までの報告数(71例)よりも減少しているが、20歳以上の成人の報告数は23例と昨シーズンの報告数(9例)を大きく上回っている。今しばらくはインフルエンザの発生動向には注意が必要である。



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>)からの引用です。

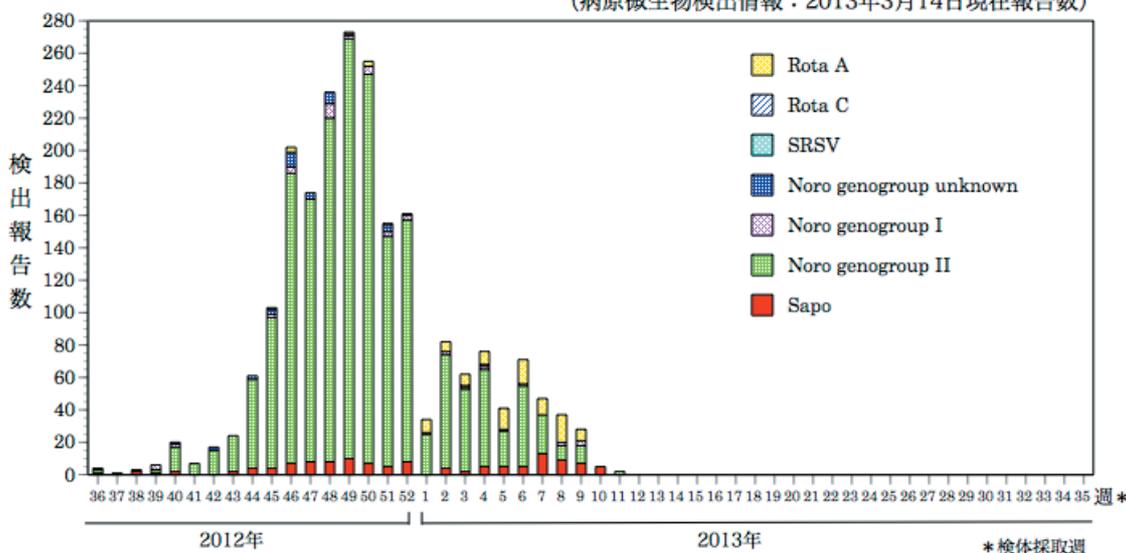
国立感染症研究所・感染症情報センターには各都道府県市の地方衛生研究所(地研)から「病原体個票」と「集団発生病原体票」が報告されています。これには感染症発生動向調査の定点およびその他の医療機関、保健所等で採取された検体から検出された病原体の情報が含まれています。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2013年3月14日現在報告分)

感染性胃腸炎関連ウイルス 2012/13シーズン

2012/13シーズン(2012年第36週/9月～2013年第35週/8月)当初の第36週(9/3-9)からノロウイルスの検出報告が続いており、2012年第44週(10/29-11/4)以降増加し、第48～50週をピークに減少している。2013年第1週以降、A群ロタウイルスの検出報告が増加している。

週別ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス検出報告数、2012/13シーズン
(病原微生物検出情報：2013年3月14日現在報告数)

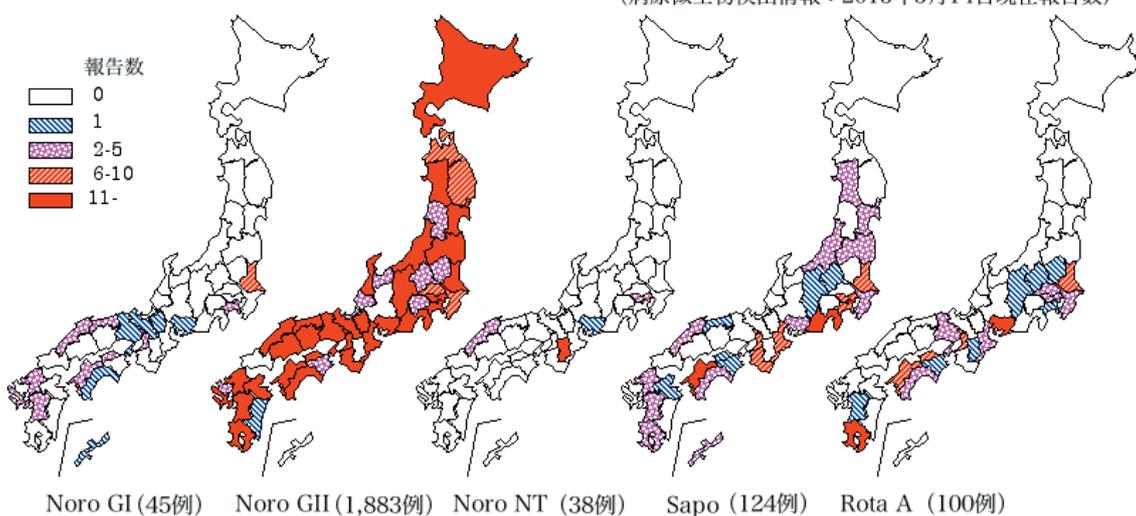


(データは現在週および過去の週に遡って追加が見込まれる)
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



病原体個票では2012年第36週(9/3-9)～2013年第11週(3/11-17)検体採取週までにノロウイルスgenogroup(G)IIが43都道府県から1,883件(うち、GII/4 494件、GII/13 22件、GII/2 10件、GII/6 7件、GII/3、GII/7 各4件、GII/14 1件)、ノロウイルスGIが16府県から45件(うち、GI/6 4件、GI/3 2件、GI/4、GI/11、GI/13 各1件)、ノロウイルスgenogroup不明が4都県から38件、サポウイルスが26都府県から124件(うち、GI 44件、GII 9件、GIV 1件)、A群ロタウイルスが19都府県から100件(うち、G1 26件、G3、G9 各3件、G2 2件)報告されている。この他に、アストロウイルスが7県から17件(うち、8型4件)報告されている。

都道府県別ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス検出報告状況、2012/13シーズン
(病原微生物検出情報：2013年3月14日現在報告数)

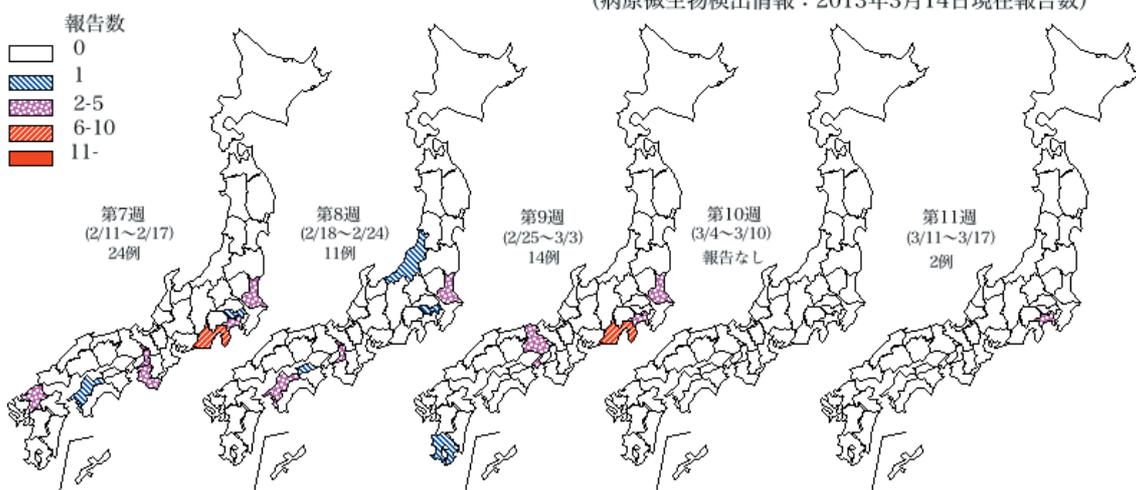


* 各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した



2013年第7週(2/11-17)~ 2013年第11週(3/11-17)の5週間では、ノロウイルスが12都府県から51件(静岡県15件、茨城県9件、神奈川県6件、大阪府5件、和歌山県4件、愛媛県3件、東京都、兵庫県、福岡県各2件など)、サポウイルスが10都府県から34件(和歌山県9件、静岡県7件、新潟県4件、茨城県3件、秋田県、東京都、大阪府、愛媛県、熊本県各2件、鹿児島県1件)、A群ロタウイルスが10都府県から34件(鹿児島県8件、茨城県6件、千葉県、三重県、香川県、愛媛県各4件、栃木県、東京都、大阪府、兵庫県各1件)、アストロウイルスが新潟県から1件報告されている。

週別都道府県別ノロウイルス検出報告状況、2013年第7週~第11週
(病原微生物検出情報：2013年3月14日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した



集団発生病原体票による報告では2012年第36週(9/3-9)~ 2013年第11週(3/11-17) (発生週) に、27道府県の飲食店、宴会場、事業所、幼稚園、小学校などにおける食中毒や有症苦情、保育所、小学校、中学校、高校、老人施設、福祉・養護施設、病院、ホテルなどにおける感染性胃腸炎の集団発生384事例からノロウイルスが検出されている。このうち、329事例はノロウイルスGII [うち、135事例はGII/4、8事例はGII/2、3事例はGII/13、2事例はGII/6、1事例はGII/4+GII/6、1事例はGII/5]、11事例はノロウイルスGI(うち、6事例はGI/6、1事例はGI/3)、9事例はノロウイルスGI + GII(うち、1事例はGI/1+GII/4、1事例はGI/4+GII/13、1事例はGI/6+GII/4+GII/11、1事例はGI/6+GI/7+GI/13+GII/2+GII/4+GII/NT)と遺伝子群別(および型別) されている。その他、2事例からA群ロタウイルス(G1、G2各1事例)、11事例からサポウイルス(うち、GI 8事例、GII 1事例)、1事例はA群ロタウイルスG1とサポウイルスGIが検出されている。

ノロウイルス検出速報は <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-noro.html> を参照ください。



海外感染症情報

*関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

新種のコロナウイルス感染症について(更新4)

2013年3月6日 WHO(GAR)

3月6日付で公表された世界保健機関(WHO)の情報によりますと、サウジアラビアで新種のコロナウイルス(NCoV)に感染した確定患者1名が新たに報告されました。

この患者は69歳の男性で、今年2月10日に入院し、2月19日に死亡しました。初動調査の結果、この患者は、以前に報告されたNCoVの感染者との接触はなく、最近の海外渡航歴もありませんでした。

これまでに、WHOに報告されたNCoVの確定患者は14人で、このうち8人が死亡しています。患者のうち、7人はサウジアラビアから報告されており、このうち5人が死亡しています。

現在の状況と利用可能な情報に基づいて、WHOはすべての加盟国へ、重症急性呼吸器感染症の監視を継続し、通常でないパターンの症例を慎重に検討するよう推奨しています。現在、WHOは状況を評価し、サーベイランスやモニタリングの推奨を再検討するために、専門家や患者が発生した国と連携しています。

WHOは、すべての加盟国に対し、新たなNCoVの感染者が発生した際には、考えられる感染経路や臨床経過の情報を合わせて、速やかに評価して報告するよう呼びかけています。

WHOは、この事例に関して入国時の特別なスクリーニングおよび渡航や貿易を制限することを推奨していません。

WHOは引き続き、状況を注視しています。

新種のコロナウイルス感染症について(更新5)

2013年3月12日 WHO(GAR)

3月12日付で公表された世界保健機関(WHO)の情報によりますと、サウジアラビアで新種のコロナウイルス(NCoV)に感染した確定患者1名が新たに報告されました。

この患者は39歳の男性で、今年2月24日に発症しました。2月28日に入院しましたが、3月2日に死亡しました。初動調査の結果、この患者は、以前に報告されたNCoVの感染者との接触はありませんでした。他の暴露の可能性のあるものについて調査中です。

これまでに、WHOに報告されたNCoVの確定患者は15人で、このうち9人が死亡しています。

現在の状況と利用可能な情報に基づいて、WHOはすべての加盟国へ、重症急性呼吸器感染症の監視を継続し、通常でないパターンの症例を慎重に検討するよう推奨しています。現在、WHOは状況を評価し、サーベイランスやモニタリングの推奨を再検討するために、専門家や患者が発生した国と連携しています。

WHOは、すべての加盟国に対し、新たなNCoVの感染者が発生した際には、考えられる感染経路や臨床経過の情報を合わせて、速やかに評価して報告するよう呼びかけています。

WHOは、この事例に関して入国時の特別なスクリーニングおよび渡航や貿易を制限することを推奨していません。

WHOは引き続き、状況を注視しています。

カンボジアで鳥インフルエンザの患者が発生しました

2013年3月12日 WHO

2003年から2013年3月12日までに、鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスに感染したと確定診断された患者は、15か国から622人が世界保健機関(WHO)へ公式に報告されています。このうち371人が死亡しています。2月15日以降、カンボジアから2人の患者が報告されており、いずれも死亡しています。前回中国で報告された患者は2人とも死亡しました。

カンボジアでは今年、鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスに感染した患者9人が報告され、そのうち8人が死亡しています。患者はカンボジア南部に位置する5州で発生しました。これらの患者に疫学的な関連はないようです。また、ほとんどの患者が村で病気になった家きんとの接触がありました。患者から分離されたウイルスはクレード1.1ウイルスで、この地域の家きんから分離されたウイルスにとてもよく似ていました。患者の周囲の調査が行われていますが、新たな患者は発見されていません。このことは、人から人への感染よりも、感染した家きんからの暴露や汚染された環境からの散発的な感染であることを示しています。カンボジアでは家きんの間でA(H5N1)ウイルスが常在しており、今後も散発的な患者が発生するかもしれません。

家きんの間でインフルエンザウイルスが循環している時は、特に家屋で飼育している家きんが感染し、その家きんに暴露する人々の中で散発例や小規模の集団発生が起こる可能性があります。しかし現在のところ、このH5N1ウイルスは人の間で効率よく感染せず、このウイルスが地域レベルで拡大するレベルは依然として低いです。

インフルエンザ - 更新181

2013年3月15日 WHO

【要約】

- ・北米のインフルエンザの活動性は、依然として高い地域もありますが、全体的には減少し続けています。米国ではインフルエンザB型の占める割合が若干増加しましたが、依然としてインフルエンザA(H3N2)が最も多く検出されています。米国では、肺炎とインフルエンザによる死亡者数が示すように、2003年から2004年のシーズン以降で最も影響の大きいシーズンとなりましたが、その影響は65歳以上の集団で最も大きくなっています。メキシコの活動性も、1月中旬から下旬にかけてピークに達した後、減少しています。
- ・ヨーロッパのインフルエンザの活動性は、依然として高いですが、伝播が減少したと報告する国が増えています。検出されるウイルスの型・亜型は地域によって差があります。インフルエンザA型よりもインフルエンザB型が多く検出されている国もありますが、主に東部ではインフルエンザB型の検出は非常に少数です。ほとんどの国の超過死亡は中等度で、死亡のほとんどが65歳以上で発生しています。
- ・アジアの温帯地域の全域で、インフルエンザの活動性は減少しましたが、モンゴルと韓国では依然として活動性が高いです。
- ・熱帯地域のインフルエンザの活動性は低い水準であり、南半球のインフルエンザの活動性は、依然としてシーズンオフの水準です。
- ・検査を実施している国で、*ノイラミニダーゼ*に耐性を有するウイルスが少数検出されています。

【北半球の温帯地域】

・北米

北米でのインフルエンザの活動性は、カナダと米国では、1月上旬にピークに達した後、3月第1週は全体的に減少し続けており、メキシコは両国より約2週間遅くなっています。インフルエンザの活動性は減少しましたが、依然として活動性の高い地域がありました。

カナダでは、検査で確定された患者数は若干増加しましたが、全体的には前週に比べて減少傾向にあり、1月上旬のピーク時から明らかに減少しました。国全体でのインフルエンザ様疾患 (ILI) の受診率は減少し続けており、2月の最終週は患者1,000人当たり31.8でしたが、3月第1週は20.5でした。3月第1週にインフルエンザウイルスが陽性となった割合は、先週の12%から15%に若干増加しましたが、以前の水準に比べ、依然として比較的低い水準です。病院、長期療養施設、学校におけるインフルエンザの集団発生は31件の報告があり、120件を超える報告があった1月第2週にピークに達した後は減少し続けています。

3月第1週に、総合サーベイランスシステム(カナダのインフルエンザの入院患者の一部を集計するシステム)によって、112人のインフルエンザに関連した入院患者が報告されました。入院患者の多く (46%) が65歳以上でした。3月第1週にインフルエンザに関連した死亡者は11人と報告されており、そのうちの8人が65歳以上でした。シーズン当初からインフルエンザに関連した死亡は254人と報告されましたが、その83%(254人中211人)が65歳以上でした。予防接種監視活動 (IMPACT) ネットワークによって、16歳未満のインフルエンザに関連した入院患者で、検査によって確定された者は新たに26人が報告され、今シーズン当初からの累計は654人となりました。

カナダでは、3月第1週に793株のインフルエンザウイルスが検出されましたが、64.1%がインフルエンザA型であり、亜型が判明しているインフルエンザA型のうち、54%がインフルエンザA (H3N2) で、46%がインフルエンザA (H1N1) pdm09でした。インフルエンザB型が検出される割合は、過去数週間で著しく増加し、1月中旬には2.1%でしたが、3月第1週には35.9%に増加しました。しかし、シーズンの累計割合では、依然として、インフルエンザB型(5.2%)よりインフルエンザA型(94.8%)が大部分を占めています。地域的には、インフルエンザB型の占める割合が増加したのは西部の州に集中しており、東部では減少しました。3月第1週に報告された小児のインフルエンザに関連した入院患者のうち、50%(26人中13人)がインフルエンザB型に関連していましたが、16歳以上では20%(15人中3人)がインフルエンザB型に関連していましたが、シーズン当初からの累計では、小児(16歳以下)の入院患者のうち9.9%(654人中65人)がインフルエンザB型で、成人(16歳以上)の入院患者のうち2.7%(1,385人中37人)がインフルエンザB型でした。シーズン当初から、国立微生物学研究所で703株のインフルエンザウイルスの抗原解析が行われ、463株がインフルエンザA (H3N2) で、93株がインフルエンザA (H1N1) pdm09で、147株がインフルエンザB型でした。インフルエンザA型は、すべて、今シーズンに北半球で使用されているワクチン株に抗原的に類似しており、インフルエンザB型ウイルスの多くは、今シーズンに北半球で使用されているワクチン株に抗原的に類似していましたが、147株中32株は前シーズンのワクチン株であったB/Brisbane/60/2008(ビクトリア系統)に類似していましたが、今シーズンは、オセルタミビルまたはザナミビルに対する耐性を示したインフルエンザウイルスはありませんでした。

米国では、インフルエンザの活動性は12月下旬から1月上旬にかけてピークに達した後、ほとんどの地域で減少し続けていますが、3月第1週は依然として高い水準でした。国全体では、ILIの外来受診率は、前回の報告は2.8%でしたが、3月第1週には2.3%に減少しましたが、依然として、国の閾値である2.2%を若干上回っています。インフルエンザが陽性となった検体の割合は、前回の報告では16.8%でしたが、17.2%に若干増加しました。しかし、ピークとなった昨年最終週

の38%に比べて低い状態が続いています。122都市の死亡報告システムを通して報告された肺炎とインフルエンザによる全死亡の割合は、1月第4週に9.8%とピークに達した後は減少し、3月第1週は7.7%でしたが、依然として流行閾値の7.5%を若干上回っています。このピークの値は、過去10年間では、2003年から2004年のシーズン(10.4%)に次いで、2番目に高い水準です。また、今シーズンは、これまでにインフルエンザに関連した小児の死亡は87人報告されました。インフルエンザに関連した小児の死亡は、2011年から2012年のシーズン中に34人、2010年から2011年のシーズン中に122人、2009年から2010年のシーズン(パンデミック)中に282人が報告されました。

シーズン当初から、検査で確定診断されたインフルエンザに関連した入院患者は10,721人と報告されており、累積率では人口10万人当たり38.5、過去3シーズンに比べて著しく高くなっています(2011年から2012年のシーズンは人口10万人当たり8.6、2010年から2011年のシーズンは人口10万人当たり21.4、2009年から2010年のシーズンは人口10万人当たり29.0)。65歳以上のインフルエンザによる入院患者の割合は、他の年齢層に比べて非常に高くなっており、51%を占めました。一方、他の年齢層では、入院患者の割合は例年と同様の水準でした。

シーズン当初から検査されたインフルエンザウイルスのうち、76%がインフルエンザA型で、24%がインフルエンザB型でした。亜型が判明しているインフルエンザA型ウイルスのうち、96%がインフルエンザA(H3N2)でした。しかし、最近の数週間で、インフルエンザB型が検出される割合が増加しました。3月第1週は、インフルエンザが陽性となった検体の64%(1,074検体中689検体)がインフルエンザB型でした。この米国の傾向は、カナダとは対照的であり、カナダでは確定された検体のうち96.5%がインフルエンザA型でした。シーズン当初から、疾病予防管理センター(CDC)は1,472株のインフルエンザウイルスの抗原解析を行いました。このうち105株がインフルエンザA(H1N1)pdm09、937株がインフルエンザA(H3N2)、430株がインフルエンザB型でした。インフルエンザA型とB型ともに、多くの株は、今シーズンに北半球で使用されているワクチン株に抗原的に類似していました。インフルエンザB型ウイルス430株のうち122株はB/Victoria/02/87-likeの系統でした。さらに、インフルエンザA(H3N2)のうち0.4%(937株中4株)はA/Victoria/361/2011に対して産生される抗血清の力価が低下しており、インフルエンザA(H1N1)pdm09のうち1%(105株中1株)はA/California/7/2009に対して産生される抗血清の力価が低下していました。シーズン当初から、インフルエンザA(H3N2)とインフルエンザB型ウイルスでは、ノイラミニダーゼ阻害薬であるオセルタミビルとザナミビルに対する耐性は認められませんでした。インフルエンザA(H1N1)pdm09は358株が検査され、オセルタミビル耐性株が2株報告されました。

メキシコは、最近、更新データを報告しました。インフルエンザの活動性は、米国と同様であり、過去数週間で減少傾向にあり、主にインフルエンザA(H3N2)が検出されました。メキシコのインフルエンザの活動性は、米国より約2週間遅れてピークに達したようです。

・ヨーロッパ

ヨーロッパのインフルエンザの活動性は、依然として高い水準にあります。特に西部では伝播が減少したと報告する国が増えました。西部では、ILIや急性呼吸器感染症(ARI)の受診率は1月最終週にピークに達しましたが、閾値を設定しているすべての国で、その閾値を上回っています。定点機関で採取された検体でインフルエンザが陽性になった検体の割合は前回の報告より減少しました。ヨーロッパ全域では、1月最終週に約60%とピークに達した後、2月最終週では49%(2,217検体中1,079検体)に減少しました。重症急性呼吸器感染症(SARI)のサーベイランスを実施している国で、1週間のSARIによる入院患者数もピークに達しましたが、東部では

ピークに達していない国もあります。ロシアでは、2月最終週に、インフルエンザが陽性となった呼吸検体の割合が増加し、まだピークに達していないようです。

ヨーロッパ死亡率監視プロジェクトに参加している15か国から報告された全死亡者数のデータによれば、現時点の超過死亡は閾値に近づいており、過去2年間のシーズンに比べ、全体的には低くなっています。ほとんどの国では、冬季の超過死亡は例年と比べ、中程度と考えられています。しかし、デンマークでは、超過死亡が最も多く、最も長期にわたって報告されており、インフルエンザの活動性はインフルエンザA(H3N2)が優勢です。

ヨーロッパ大陸で、最も多く検出されているのはインフルエンザA(H1N1)pdm09ですが、地域によって差があります。今シーズンは、64,000株以上のインフルエンザウイルスが解析されました。このうち66%がインフルエンザA型で、34%がインフルエンザB型でした。亜型が判明したインフルエンザA型のうち、72%(27,810株中19,944株)がインフルエンザA(H1N1)pdm09で、28%(27,810株中7,866株)がインフルエンザA(H3N2)でした。しかし、フランス、アイルランド、イタリア、スペイン、英国では、インフルエンザB型が検出される割合が高くなっています。対照的に、東部ではインフルエンザB型の検出は非常に少数です。シーズン当初から、1,560株のインフルエンザA型ウイルスが解析されましたが、1,079株のインフルエンザA(H3N2)は、すべて、現在使用されている季節性の3価ワクチンに含まれるA/Victoria/361/2011(H3N2)-likeと抗原的に類似していました。解析された1,136株のインフルエンザB型ウイルスのうち、50%(1,136株中566株)はB/Estonia/55669/2011-like(B/Yamagata/16/88-lineage)と抗原的に類似しており、24%(1,136株中272株)はB/Wisconsin/1/2010-like(B/Yamagata/16/88-lineage)と抗原的に類似していました。

2012年第40週から、ノイラミニダーゼ阻害薬であるオセルタミビルとザナミビル感受性検査が11か国で合計730株について行われました。アミノ酸変異(H275Y)を有するノイラミニダーゼ阻害薬耐性株が5株検出されました。そのうち2株は英国で、オセルタミビルでの治療を受けていない外来患者から検出されました。他の3株は、オランダ(2株)とスイス(1株)で、オセルタミビルによる治療を受けた免疫抑制状態にある患者から検出されました。194株のインフルエンザA(H3N2)はオセルタミビルとザナミビルに感受性がありました。234株のインフルエンザB型のうち、233株はオセルタミビルとザナミビルに感受性がありましたが、英国で抗ウイルス薬による治療を受けていない患者から検出された1株はオセルタミビルによる阻害効果が減少していました。

・ アフリカ北部と東地中海地域

アフリカ北部における、インフルエンザ陽性検体数は、過去数週間にわたって増加しました。アルジェリアとチュニジアでは、インフルエンザA(H1N1)pdm09とインフルエンザB型の伝播が増加したと報告されています。

東地中海地域では、インフルエンザの活動性は2月第1週にピークに達した後、減少し続けています。この地域では、今シーズンはインフルエンザA(H1N1)pdm09が優勢です。イスラエルでは、3月第1週に活動性が比較的高いものの減少していると報告されています。

・ 北アジア

アジアの温帯地域では、ほとんどの地域でインフルエンザの活動性が減少し続けています。中国北部と日本では、約4週間にわたって、ILIの活動性と、ILI患者の検体でインフルエンザが陽性になったものの割合が減少しました。一方、モンゴルでは、依然として活動性が高く、まだ減少していないようですが、季節性の水準内です。韓国のインフルエンザの活動性は若干増加し続けており、まだピークに達していないようです。

今シーズンに北アジアのほとんどの地域で最も多く検出されているのはインフルエンザA(H3N2)ですが、中国北部では、最近数週間でインフルエンザA(H1N1)pdm09が増加したと報告されています。中国北部で、3月第1週に検出されたインフルエンザウイルス75株は、すべてインフルエンザA型でした。このうち70.7%(75株中53株)はインフルエンザA(H1N1)pdm09で、28.0%(75株中21株)はインフルエンザA(H3N2)でした。今シーズン当初から中国国家インフルエンザセンターで亜型が解析されたインフルエンザウイルスのうち、インフルエンザA(H1N1)pdm09の99.2%(131株中130株)はA/California/7/2009-likeに類似しており、インフルエンザA(H3N2)はすべて(519株)A/Victoria/361/2011(H3N2)-likeに類似していました。また、インフルエンザB型では、インフルエンザB/Victoriaの96.5%(144株中139株)はB/Brisbane/60/2008-likeに類似しており、B/Yamagataはすべて(20株)B/Wisconsin/01/2010-likeに類似していました。3月第1週に検査された3株のインフルエンザA(H1N1)pdm09と4株のインフルエンザB型の株で、ノイラミニダーゼ阻害薬であるオセルタミビルとザナミビルに耐性のあるものはありませんでした。

【熱帯地域】

・アメリカ大陸(中米、カリブ海諸国)の熱帯地域

中米とカリブ海諸国では、インフルエンザの活動性は前週と比べ、ほぼ同じか減少し、晩夏のピークから減少し続けています。全体的には、ILIとARIの患者のほとんどがインフルエンザではない疾患と報告されており、RSウイルスとライノウイルスが最も多く報告されています。キューバではインフルエンザA(H1N1)pdm09が最も多く検出されており、ニカラグアではインフルエンザB型が最も多く検出されていると報告されています。

南米の熱帯地域では、急性呼吸器疾患の活動性は低いままで、予想される水準に留まっています。ブラジル、エクアドル、ペルーでは、インフルエンザA(H3N2)とB型が少数報告されています。

・中部アフリカ

中部アフリカのほとんどの国では、インフルエンザの検出数は低くなっています。しかし、カメルーンとマダガスカルでは、わずかですが、インフルエンザB型の伝播が持続していると報告されています。

・アジアの熱帯地域

南アジアのインフルエンザの伝播は低い水準で、活動性は高くありません。タイでは、インフルエンザA(H3N2)とインフルエンザB型がともに伝播しています。この地域のほとんどの国では、ILIのサーベイランスで、3月第1週にインフルエンザが陽性になった検体は非常に少数か、無かったと報告しています。

インドでは、過去数週間に比べ、低い水準でインフルエンザA(H1N1)pdm09が報告されており、さらに低い水準でインフルエンザB型も報告されました。パキスタンでは、インフルエンザの活動性は減少しており、インフルエンザB型のみが検出されていると報告されています。一方、スリランカでは、前週に比べてインフルエンザが陽性になった検体数が増加し、3種類の型・亜型がほぼ同じ割合で伝播していると報告されています。

【南半球の温帯地域】

南半球の温帯地域のすべての国で、現在、インフルエンザの活動性は、シーズンオフの水準です。



感染症の話

*本記事は、国立感染症研究所ホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>)に掲載されている各疾患の説明とは、を掲載しています。

マラリア

マラリア(Malaria)は、亜熱帯・熱帯地域を中心に感染者数が多く、世界的に重要な感染症である。また、非流行地から流行地を訪れる旅行者でも問題となるが、その場合、流行地とは異なった視点での対応も必要となる。感染したマラリア原虫の種によって、病型や治療法も異なるが、熱帯熱マラリアでは、早期に適切な対応をしないと短期間で重症化し、死に至ることがある。

疫学

マラリアは100カ国余りで流行しており、世界保健機構(WHO)の推計によると、年間2億人以上の罹患者と200万人の死亡者がある¹⁾。死亡例の大部分はサハラ以南アフリカにおける5歳未満の小児だが、アフリカ以外に、アジアや南太平洋諸国、中南米でも多くの発生がみられる。重症化しやすく死亡率も高い熱帯熱マラリアは、アフリカやアジア・太平洋の熱帯地域が流行の中心だが、三日熱マラリアは、韓国や中国といった温帯地域でも問題になっている。黒人は遺伝的に三日熱マラリア原虫に感染しにくく、従来、三日熱マラリアの流行は、アフリカではないとされたが、アジア系住民の流入増加もあり、東アフリカを中心に報告されるようになった。熱帯熱マラリアと三日熱マラリアの両方がみられる地域では、マラリア対策の進捗により、流行の中心が熱帯熱マラリアから三日熱マラリアに移る現象がみられ、現在、東南アジアや中南米ではマラリア患者の総数が減少する一方、相対的に三日熱マラリアの比率が増している。卵形マラリアや四日熱マラリアは、熱帯熱マラリアや三日熱マラリアに比して感染者は少ない。

旅行医学の領域でもマラリアは重要な疾患で、全世界では、旅行者が帰国してから発症する例が年間3万人程度あるとされる。マラリアに対して免疫がない旅行者では、診断・治療の遅れで致命的となるので、的確な早期対応が求められる。日本国内での報告数は、1990年代は増加傾向を示し、2000年には年間154例に達したが、最近では年間50～70例で推移している。国内での報告例は輸入例に限られるが、推定感染地域の流行情報を反映し、アジア地域での感染例では三日熱マラリア、アフリカ地域での感染例では熱帯熱マラリアが多い²⁾。輸血(保存血、血小板、交換輸血)、針刺し事故などによる感染も起こり得るので、検査検体を取り扱う際も注意を要するが、日本国内では、1991年の輸血マラリアを最後に、輸入例以外の報告はない。また、マラリア原虫を媒介するハマダラカ(*Anopheles* 属の蚊)は、日本国内にも生息しており、同じように国内に媒介蚊が生息するデング熱やチクングニア熱と同様、マラリアも検疫感染症に指定されている。もっとも、最近の日本国内での温暖化傾向にあっても、媒介蚊の生息地拡大や生息数増加を示唆する報告は少なく、国内でのマラリア再興のリスクは小さい³⁾。

病原体

マラリアの病原体は *Plasmodium* 属の原虫で、ヒトに感染して臨床的に問題となるのは、熱帯熱マラリア原虫(*P. falciparum*)、三日熱マラリア原虫(*P. vivax*)、卵形マラリア原虫(*P. ovale*)、四日熱マラリア原虫(*P. malariae*)の4種とされてきたが、2004年以降、マカク属のサルで感染が問題となっていた *P. knowlesi* のヒトでの集団感染例が、マレーシア、ボルネオ島で明らかになった。以後、媒介蚊である *Anopheles leucosphyrus* が生息するインドシナ諸国、フィリピンなどから感染例の報告が続き、2012年には、マレーシアから帰国した日本人での発症例も

報告された^{4) 5)}。

マラリア原虫のヒトへの感染では、メスのハマダラカが産卵のため吸血する際、唾液腺に集積していたマラリア原虫のスポロゾイトが、唾液注入に伴い体内に侵入する。血中に入ったスポロゾイトは45分程度で肝細胞に取り込まれるが、肝細胞内で分裂を開始し、数千個のメロゾイトになった段階で肝細胞を破壊して血中に放出される。メロゾイトは赤血球に侵入し、輪状体(早期栄養体)、栄養体(後期栄養体、あるいはアメーバ体)、分裂体の経過をたどり、8～32個に分裂した段階で赤血球膜を破壊して放出され、メロゾイトは新たな赤血球に侵入して上記のサイクルを繰り返す。三日熱マラリア原虫と卵形マラリア原虫の場合には、肝細胞内で休眠体(ヒプノゾイト)が形成された後、何年も経過してから分裂を開始して血中に放出され、症状が再発することがある。

無性生殖を繰り返すうちに、一部の原虫は雌雄の区別がある生殖母体へと分化する。これはヒト体内では有性生殖をしないが、ハマダラカに吸われるとその中腸内で合体受精して最終的にオーシストとなり、その中に多数のスポロゾイトが形成される。このマラリア原虫感染蚊の吸血で、ヒト-蚊-ヒトのマラリア原虫感染サイクルが完結するが、従来から知られた4種の原虫と異なり、*P. knowlesi* については、サル-蚊-ヒトでの感染サイクルは確認されているものの、ヒト-蚊-ヒトでの自然感染はまだ確認されていない⁴⁾。

病態・臨床症状

マラリア流行地で育ったわけではなく、マラリアに免疫のないヒト(non-immune)が初感染した場合、発熱はほぼ必発といってよく、原虫侵入後の潜伏期は熱帯熱マラリアで12日前後、四日熱マラリアは30日前後、三日熱マラリアと卵形マラリアでは14日前後である。ただし、流行地で生まれ育ち、何度もマラリアに罹患して免疫を得ているヒト(semi-immune)では、発熱などの症状が軽度しかみられないこともある。また、三日熱マラリアでは、non-immuneでも1年以上、はっきりした症状もなく過ごすことがある。典型例では、潜伏期間の後、悪寒、震えと共に熱発作で発症する。この熱発作の間隔は、四日熱マラリアで72時間ごと、三日熱・卵形マラリアで48時間ごと、熱帯マラリアでは不定期で短い。*P. knowlesi* 感染では24時間程度と言われている。発熱に伴い、倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛などがみられるが、腹部症状(悪心・嘔吐、下痢、腹痛)や、呼吸器症状がめだつこともあり、マラリアを疑わないと、風邪やインフルエンザと誤診されることになる。一般検査所見では血小板減少、LDH上昇などが高頻度に見られる。貧血は、病初期にはみられないことも多い。熱帯熱マラリア原虫が感染した赤血球は、表面に種々の原虫由来物質を表出するので、細血管に富む臓器を中心に、血管内皮への血球の固着が多臓器不全を起こす。重症化すると脳症、腎症、肺水腫/ARDS(図1)、DIC様出血傾向(図2)、重症貧



図1. 重症マラリア症例における肺水腫/ARDSの胸部レ線像。両肺野全体に異常陰影があるが、特に右肺に顕著である。(写真提供: 木村幹男 博士)



図2. 重症マラリア症例における出血傾向。左上肢に広範な出血斑がみられる。(写真提供: 木村幹男 博士)

血、代謝性アシドーシス、低血糖、黒水熱(高度の血色素尿症)など種々の合併症を生じ、致死的となる⁶⁾。熱帯熱マラリア以外でも、最近、三日熱マラリアでも呼吸器症状などの臓器障害を合併する例が報告されており、注意が必要である。

診断

血液塗抹標本を染色し、光学顕微鏡で検査する形態学的診断法が gold standard である。塗抹標本には厚層塗抹と薄層塗抹があり、理論上は厚層塗抹の方が多くの血液量を検査できるので診断感度が高く、途上国のマラリア流行地ではよく行われる。日本国内では、一般的な血球の形態検査と同様、複数の血液薄層標本を作製し、ギムザ染色して鏡検するのが実際的である。血液塗抹標本で見られる熱帯熱マラリア原虫は通常、輪状体のみであり、数が少ないときなど見逃しやすい。形態診断では、アクリジン・オレンジ染色の併用も有用だが、顕微鏡検査での診断精度は、検査者の経験と技量によるところが大きいため、マラリアが強く疑われる場合、他の検査法も併用することが望ましい。

マラリアの迅速診断キットは、顕微鏡による診断が困難な流行地のヘルス・ポストのみならず、非流行国でのトラベル・クリニックなどでも広く利用され、現在100種類以上のキットが販売されている。ただし、その品質はまちまちで、WHOは、原虫密度100/μl以上での検出を基準としている⁷⁾。イムノクロマト法によってマラリア原虫特異抗原を検出するという原理は共通だが、histidine-rich protein 2 (HRP-2)を検出するキットおよび、マラリア原虫の細胞内代謝酵素 plasmodium lactate dehydrogenase (pLDH) を検出するキットに大別される(表)。どのキットも、致死的となり得る熱帯熱マラリアと他のマラリアを、15分程度で区別して検出できることを一義的に考えている。一般的に、熱帯熱マラリア原虫の検出には、HRP2検出系がすぐれ、三日熱マラリア原虫の検出にはpLDH検出系がすぐれているので、最近、複数の抗原を使用するキットも臨床応用されている。ただし、原虫密度50/μl以下程度となると、検出率は極端に低下する傾向は同じである⁸⁾。また、日本国内で臨床試験薬として認可されている製品はなく、国内での使用については、顕微鏡的形態検査などによる確定診断の補助として用いるのが原則である。

診断キット	検出抗原
Binax Now	Pf HRP-2/pan pAldorase
Opti MAL	Pf pLDH/pan pLDH
SD, Ag Pf/Pan	Pf HRP-2/pan pLDH
Entebe Malaria	Pf HRP-2/Pv pLDH

表. 各種マラリア迅速診断キットと使用抗原
 Pf : 熱帯熱マラリア原虫
 Pv : 三日熱マラリア原虫
 pan : マラリア原虫共通

PCR法としてはrRNA遺伝子を標的にした鑑別法が木村やSnounouらによって開発されている^{9) 10)}。木村らの方法は4種のマラリア原虫で、約100bpの特異的なrRNA遺伝子配列を増幅する。Snounouらの方法は、異なる長さのPCR産物が増幅できるので種の鑑別には便利だが、卵形マラリア原虫の亜種が検出できないことに注意すべきである¹¹⁾。*P. knowlesi*の検出には、三日熱マラリア原虫との交差反応を避けるために、rRNA遺伝子とCSP遺伝子を組み合わせた2種類のPCRで判別をすることが必要である^{12) 13)}。PCR法には、ある程度の設備と技術が必要ではあるが、5種類のマラリア原虫を区別して感度良く検出でき、顕微鏡法を補うものとして、あるいは顕微鏡法の技術を高めるものとして有用である。

さらに、実際の診断にあたっては、患者の行動歴や臨床情報とならんで世界的なマラリアの疫学的状況の把握も重要となる。熱帯地域から帰国後の熱性疾患では、デング熱などのアルボウイルス感染との鑑別が重要だが、マラリア原虫を媒介する *Anopheles* 属の蚊は、アルボウイルスを媒介する *Aedes* 属の蚊と異なり、都市環境では生息は難しい。アフリカやインド等の一部の国を除き、日本人が、熱帯の都市に滞在しマラリアに罹患する可能性はかなり低い。また、発熱以外に消化器症状が前面に出た場合は、腸チフスとの鑑別が問題となる。

治療（予防投薬を含む）

マラリアの治療は、急性期治療と根治的治療に分けて考えることができる。世界的にみると、従来からクロロキン耐性が問題となっていた熱帯熱マラリア以外のマラリアでも、急性期の治療薬として、短期作用型のアルテスネートと長期作用型の他剤を組み合わせた合剤が利用されることが多くなった。熱帯熱マラリアの合併症に対し、病態に合わせた補助的治療が必要なのは、他の重症疾患と同じである。また、三日熱マラリアと卵形マラリアの場合は、急性期治療の後に、肝細胞内に潜む休眠体原虫を殺滅する根治療法として、プリマキンの投与が必要となる。

日本国内での治療を考えた場合、三日熱マラリア、卵形マラリア、四日熱マラリア、*P. knowlesi*感染での急性期治療としてクロロキンをういてもよいが、三日熱マラリアではパプアニューギニア、インドネシアなどでクロロキン耐性が出現していることも念頭におく¹⁴⁾。クロロキンが入手不可能な場合は、国内市販薬であるスルファドキシシ/ピリメタミン、メフロキンなどを用いることになる。熱帯熱マラリアではクロロキン耐性が進行しているため、クロロキン以外の薬剤を用いるべきだが、スルファドキシシ/ピリメタミン合剤も耐性が進行しつつある。メフロキンは、タイ・カンボジアあるいはタイ・ミャンマーなどの国境地帯の感染を除けば、有効なことが多い。インドシナ半島の流行地では、熱帯熱マラリアで多剤耐性が進行しているため、クロロキンやスルファドキシシ/ピリメタミン合剤以外の薬剤を用いた方がよい。マラリア流行地では、最近、アーテメター/ルメファンリン合剤の使用機会が増えており、欧米でも使われ始めたが、日本ではまだ認可されていない。欧米ではキニーネ経口薬とドキシサイクリン、あるいはクリンダマイシンとの併用も行われる。薬剤耐性熱帯熱マラリアに有効な薬剤としては、最近、国内ではアトバコン/プログアニル塩酸塩が、新たに治療薬として認可された。

重症マラリアでは非経口的な投与が必要であり、キニーネ注射薬が標準的だが、最近ではアーテメシニンおよび誘導体の注射や坐剤が用いられることが多い。タイやカンボジア国境付近ではアーテメシニンの効果が低下しているとの報告がある¹⁵⁾。アトバコン/プログアニル塩酸塩の耐性株についても、アフリカで報告され始めるなど、マラリアの治療をめぐる状況は変化が激しい。現在、日本国内で販売されている抗マラリア薬は、スルファドキシシ/ピリメタミン、メフロキン、塩酸キニーネ、アトバコン/プログアニル塩酸塩の4種類だが、このうち、予防投薬が認めら

れているのは、メフロキンとアトバコン/プログアニル塩酸塩である。市販薬以外の抗マalaria薬については「熱帯病治療薬研究班(略称)」(<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/parasitology/orphan/index.html>)が保管している。熱帯熱マalariaを中心に、マalariaの治療や予防投薬については、国内の専門家会議からガイドラインが示されているが、実際の診療にあたっては、詳細は毎年更新される国際保健や旅行医学の文献で、最新の情報を入手して対処するのが望ましい^{16), 17)}。

感染症法における取り扱い

全数報告対象(4類感染症)であり、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出なければならない。

参考文献

- 1) World Health Organization: World Malaria Report 2011. Geneva, Switzerland.
http://www.who.int/malaria/world_malaria_report_2011/en
- 2) Tada Y et al. Travelers' risk of malaria by destination country: a study from Japan. *Travel Med Infect Dis.* 6: 368-72. 2008
- 3) 大前比呂思, 石川洋文. 気候変動と寄生虫症 - マalariaに焦点を当てて - 特集 気候変動と感染症 資源環境対策 44: 29-33. 2008
- 4) 川合覚: 人獣共通感染性・サルマalariaに関する最近の知見. *モダンメディア* 56: 139-127. 2010
- 5) 谷崎隆太郎 他 ヒト *Plasmodium knowlesi* 感染症(サルマalaria)の1例 *IASR* 34: 6-7. 2013
- 6) World Health Organization: Management of Severe Malaria, a practical guidebook, 2nd edition, 2000. Geneva, Switzerland.
<http://www.rbm.who.int/docs/hbsm.pdf>
- 7) World Health Organization: Malaria Rapid Diagnostic Test Performance, 2011. Geneva, Switzerland.
<http://www.who.int/tdr/publications/documents/rdt3.pdf>
- 8) 大前比呂思 他 マalaria対策の進捗による感染状況の変化とフィールドでの迅速診断法の限界 *臨床寄生虫学会誌* 18: 76-79. 2007
- 9) Kimura M et al, Identification of the four species of human malaria parasites by nested PCR that targets variant sequences in the small subunit rRNA gene *Parasitol. Inter.* 46:91-95, 1997.
- 10) Snounou, G et al. Identification of the four human malaria parasite species in field samples by the polymerase chain reaction and detection of a high prevalence of mixed infections. *Mol. Biochem. Parasitol.* 58:283-292, 1993.
- 11) Sutherland, C et al. Two Nonrecombining Sympatric Forms of the Human Malaria Parasite *Plasmodium ovale* Occur Globally. *J. Infect. Dis.* 201:1544-1550, 2010.
- 12) Singh B, et al. A large focus of naturally acquired *Plasmodium knowlesi* infections in human beings. *Lancet* 363:1017-1024, 2004.
- 13) Imwong, et al. Spurious Amplification of a *Plasmodium vivax* Small-Subunit RNA Gene by Use of Primers Currently Used To Detect *P. knowlesi*. *J. Clinical. Microbiol.* 47:4173-7175, 2009.
- 14) Baird JK et al. Diagnosis and treatment of *Plasmodium vivax* Malaria. *Advances in Parasitology*, vol 80, p204-270.

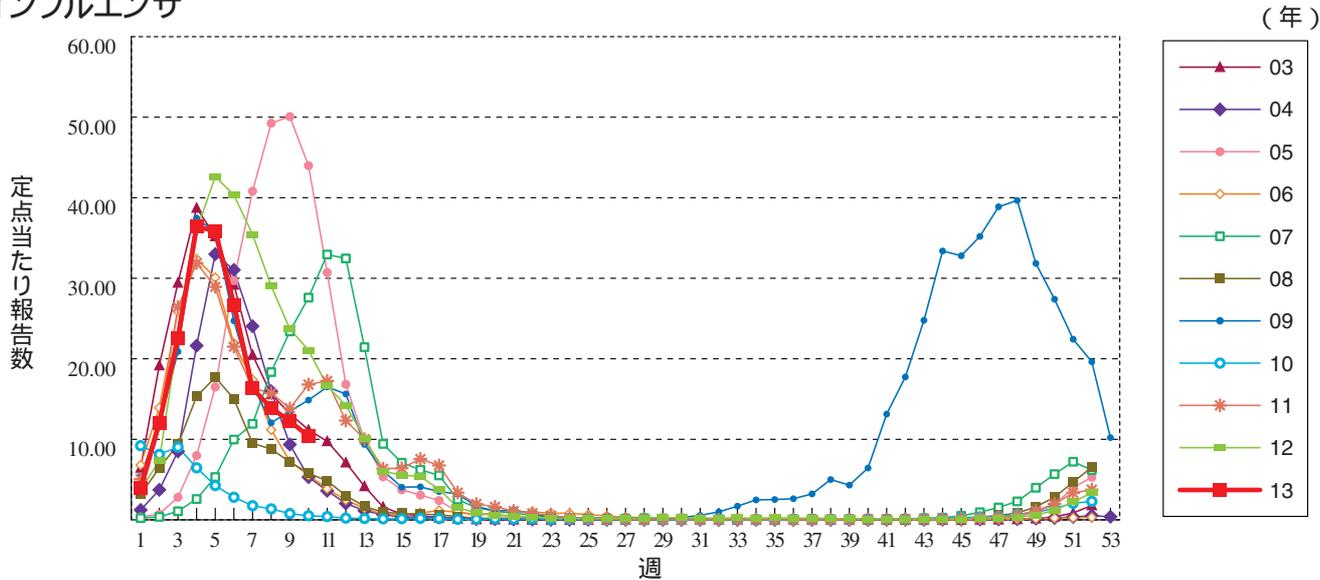
- 15) Fairhurst, M. Artemisinin-Resistant Malaria: Research Challenges, Opportunities, and Public Health Implications. *Am. J. Trop. Med. Hyg.* 87:231-241. 2012.
- 16) マラリア予防専門家会議 日本の旅行者のためのマラリア予防ガイドライン フリープレス 東京 2005
- 17) World Health Organization: International Travel Health 2012 edition, Malaria Situation, 2012. Geneva, Switzerland. <http://www.who.int/ith>

(国立感染症研究所寄生動物部 大前比呂思、中野由美子)

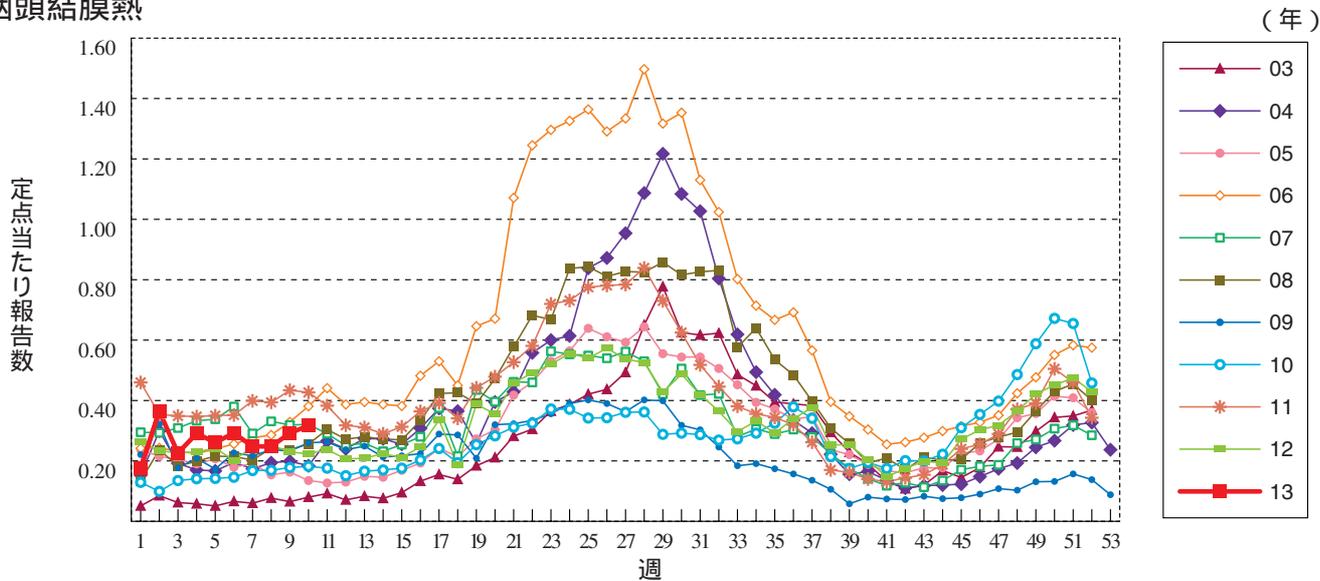


グラフ総覧(10週)

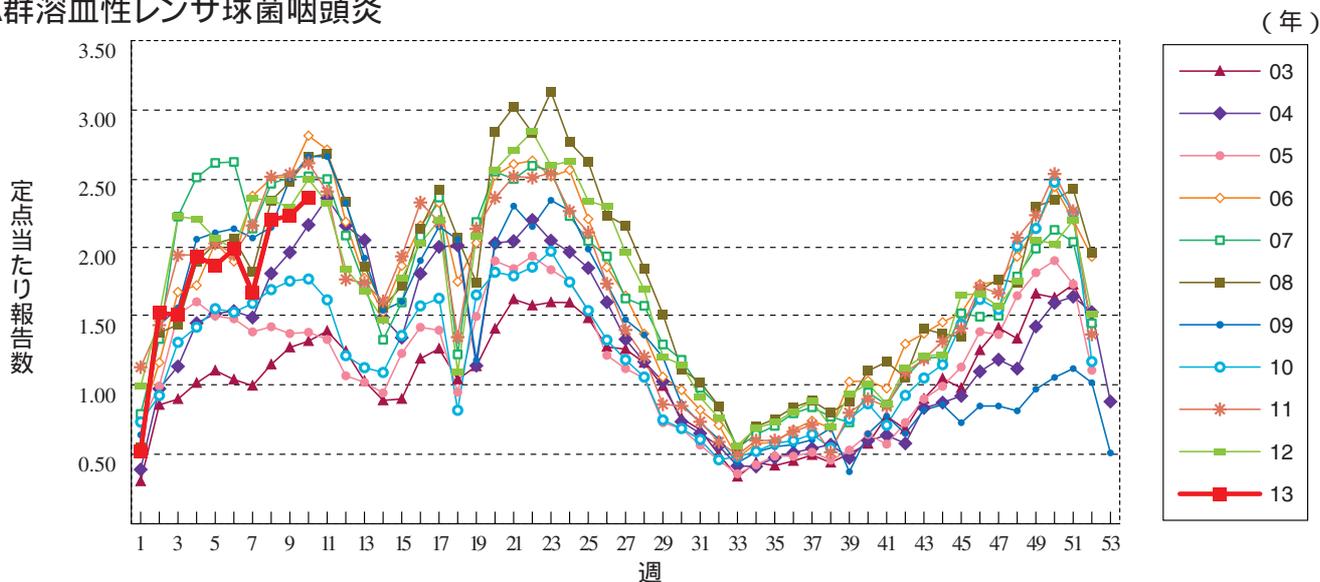
インフルエンザ



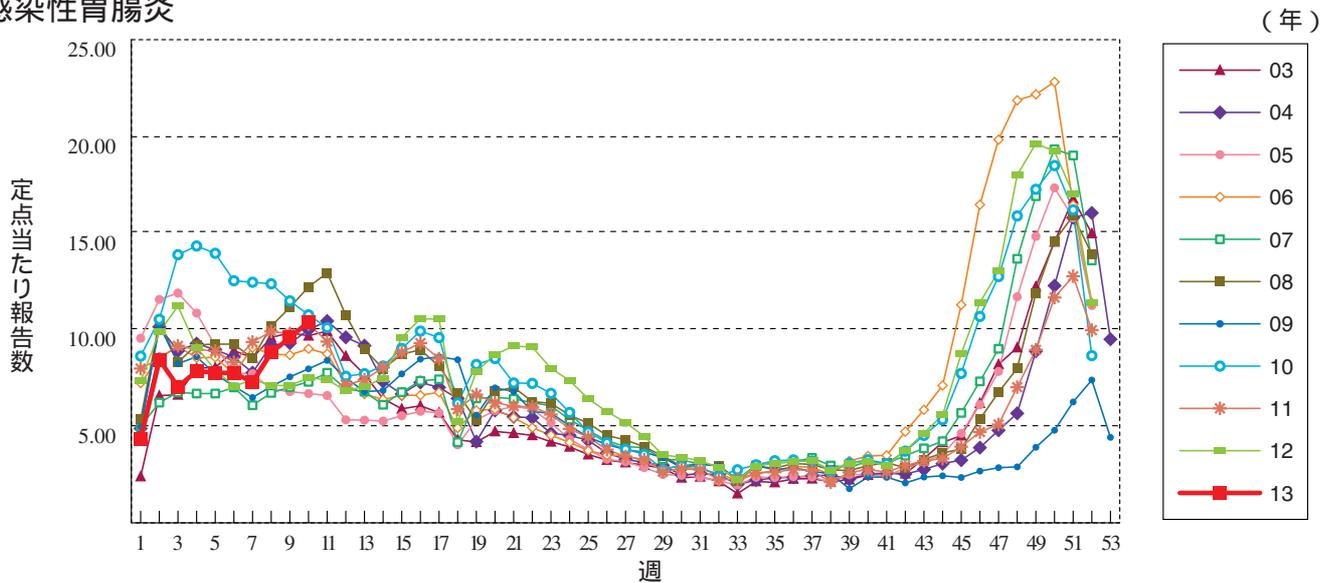
咽頭結膜熱



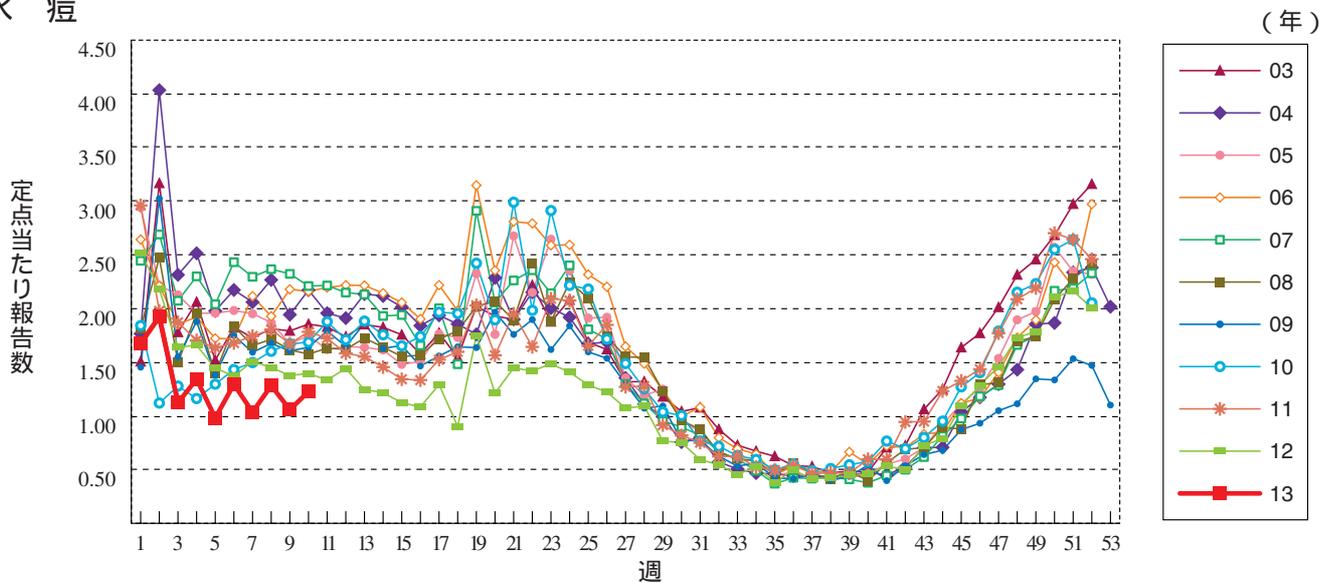
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



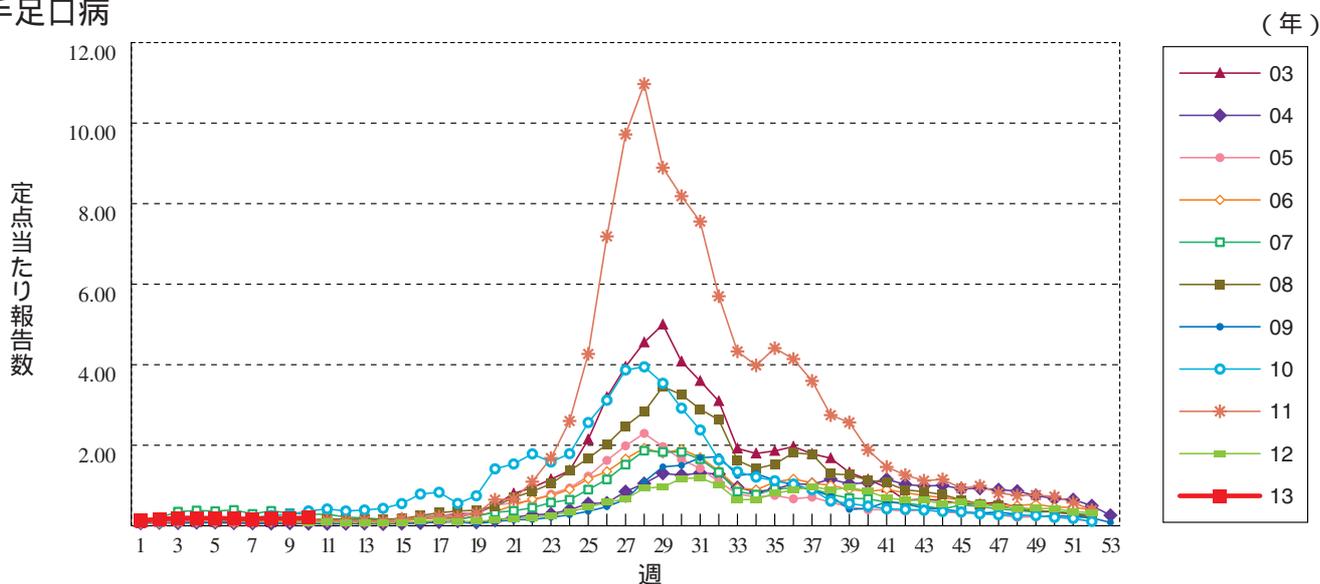
感染性胃腸炎



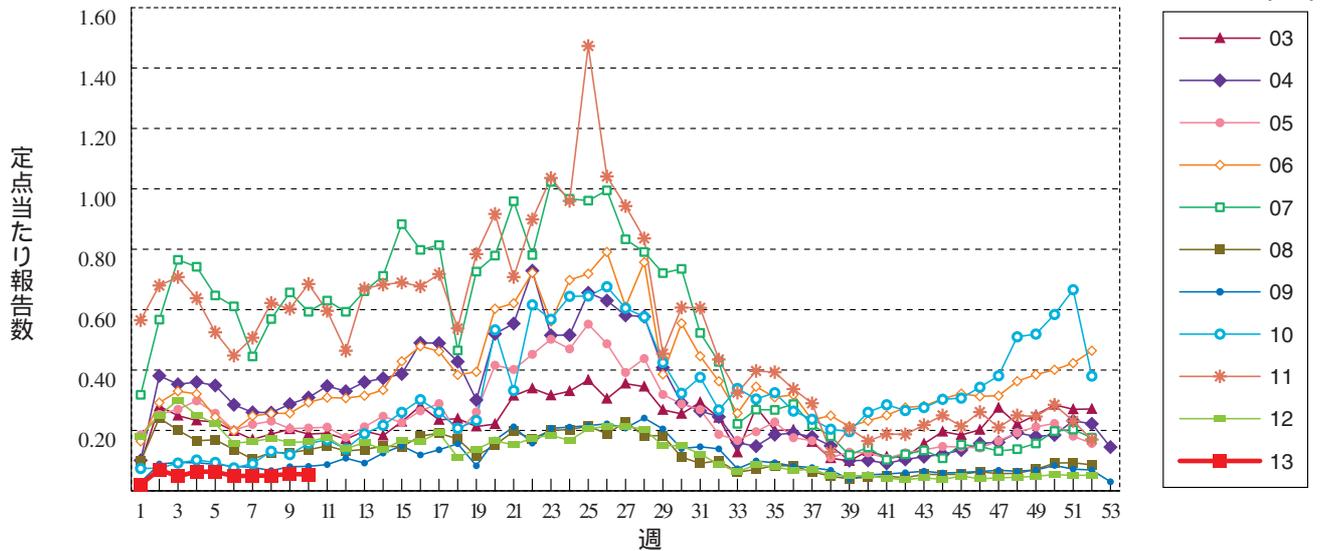
水痘



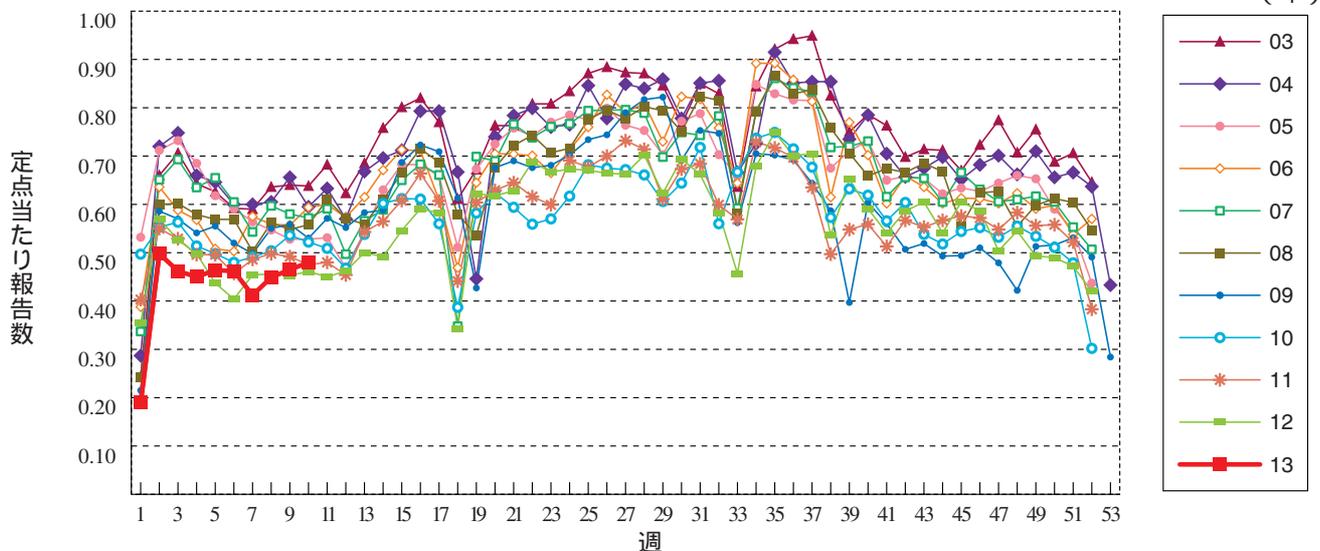
手足口病



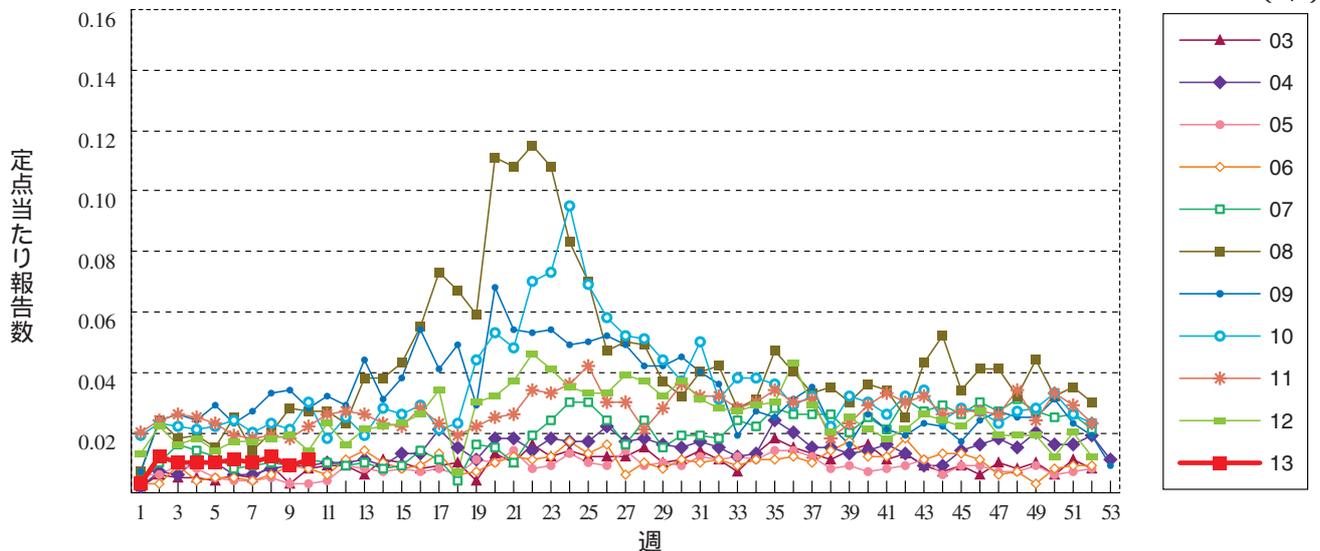
伝染性紅斑



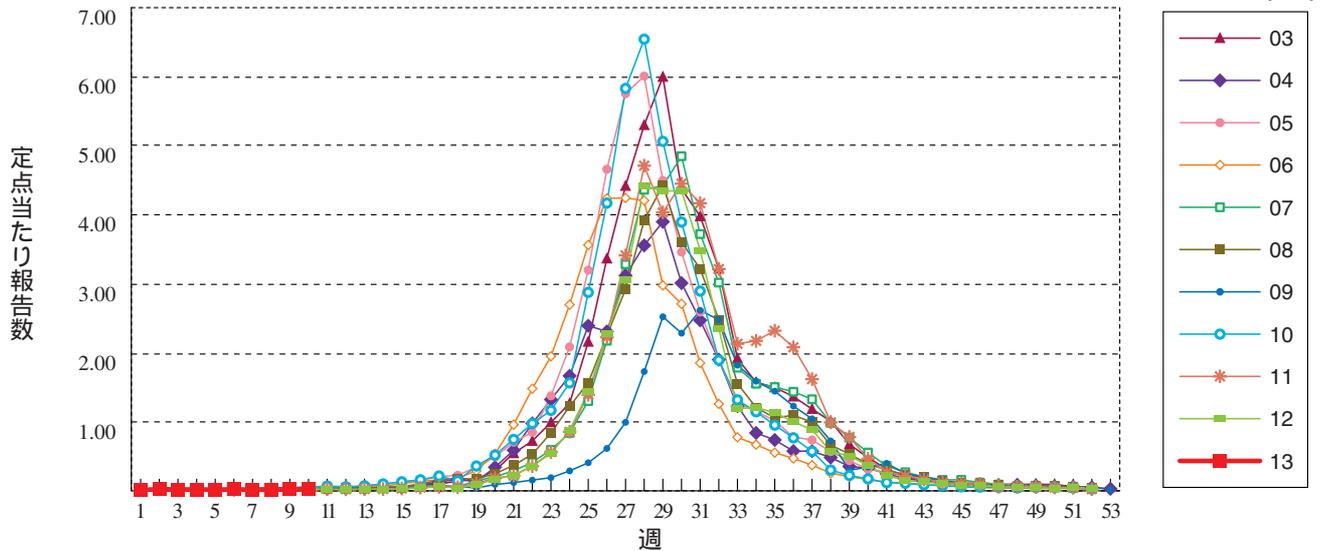
突発性発しん



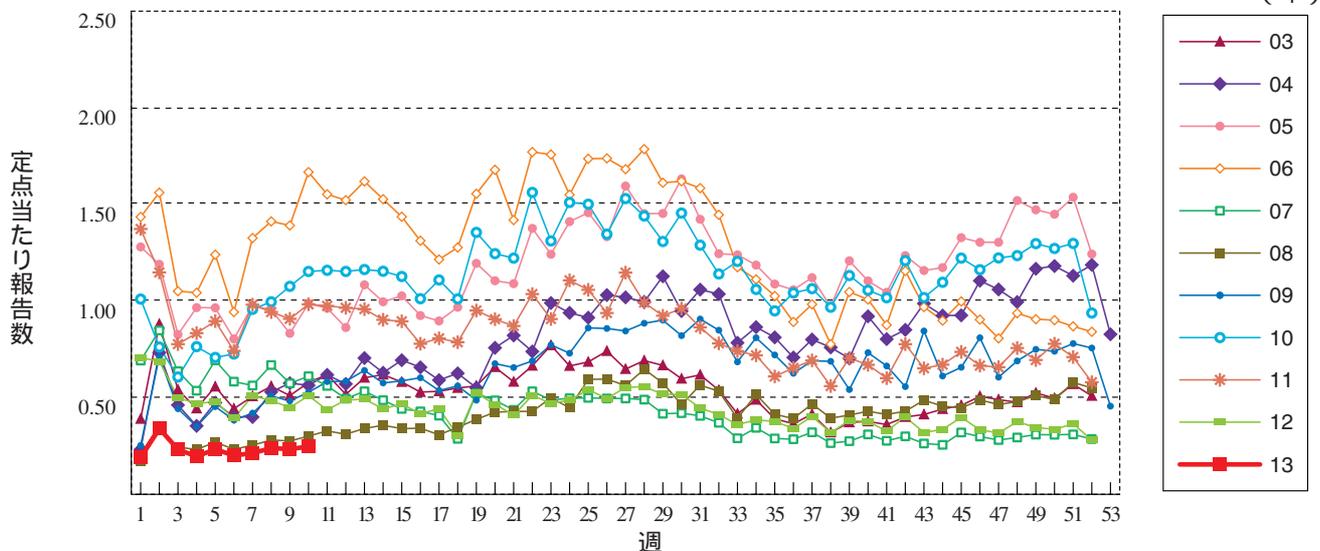
百日咳



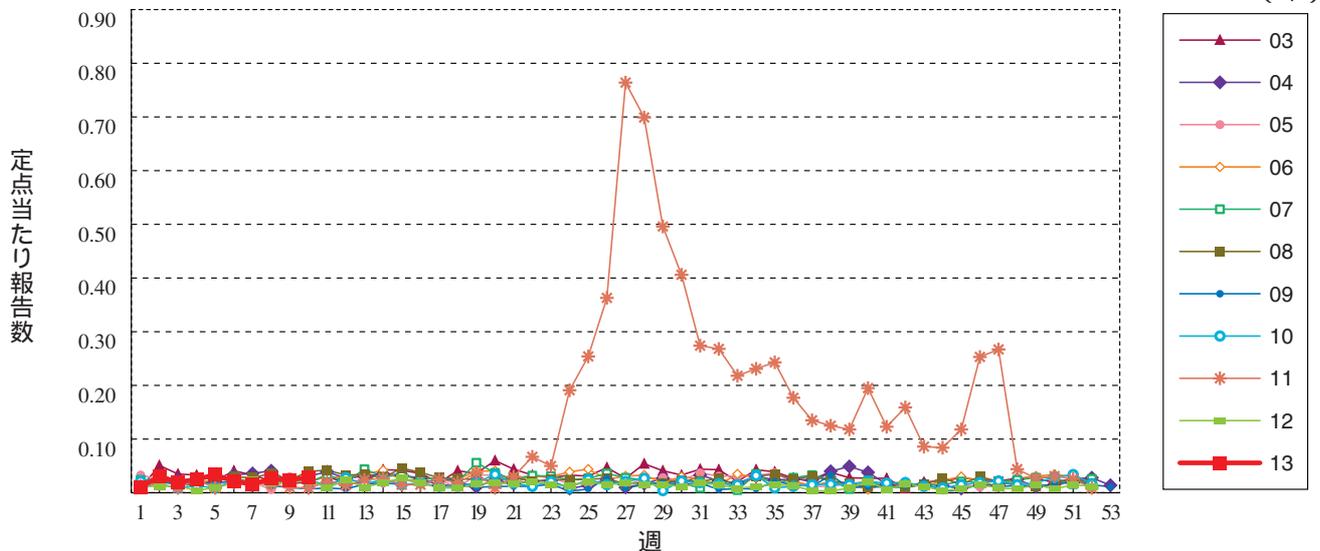
ヘルパンギーナ



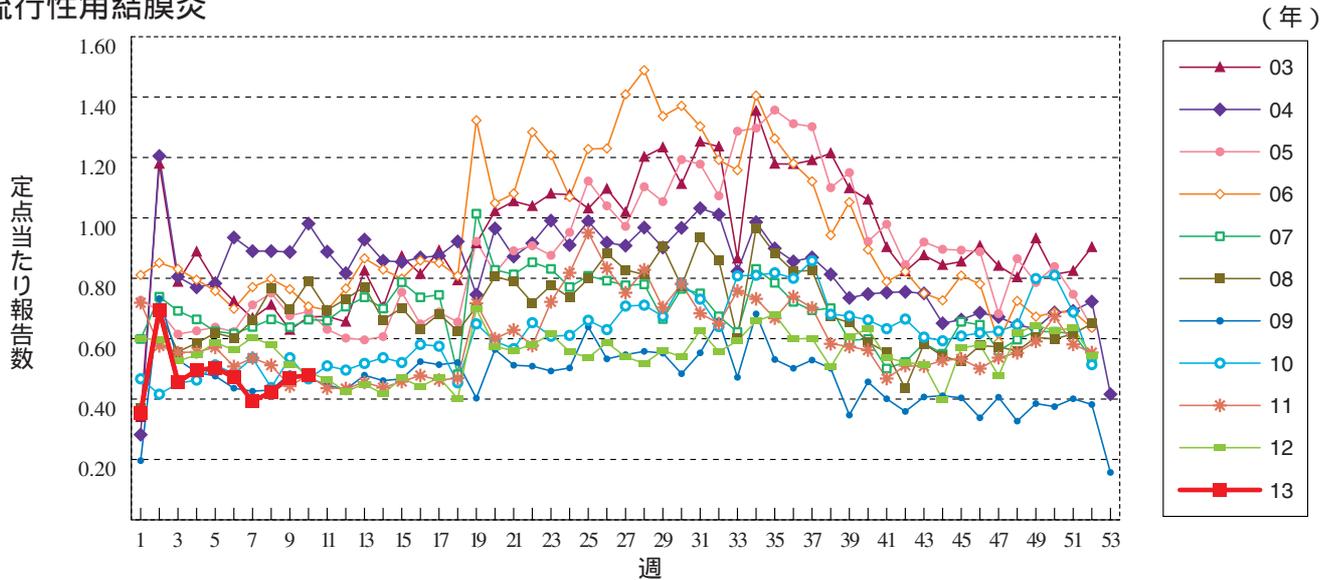
流行性耳下腺炎



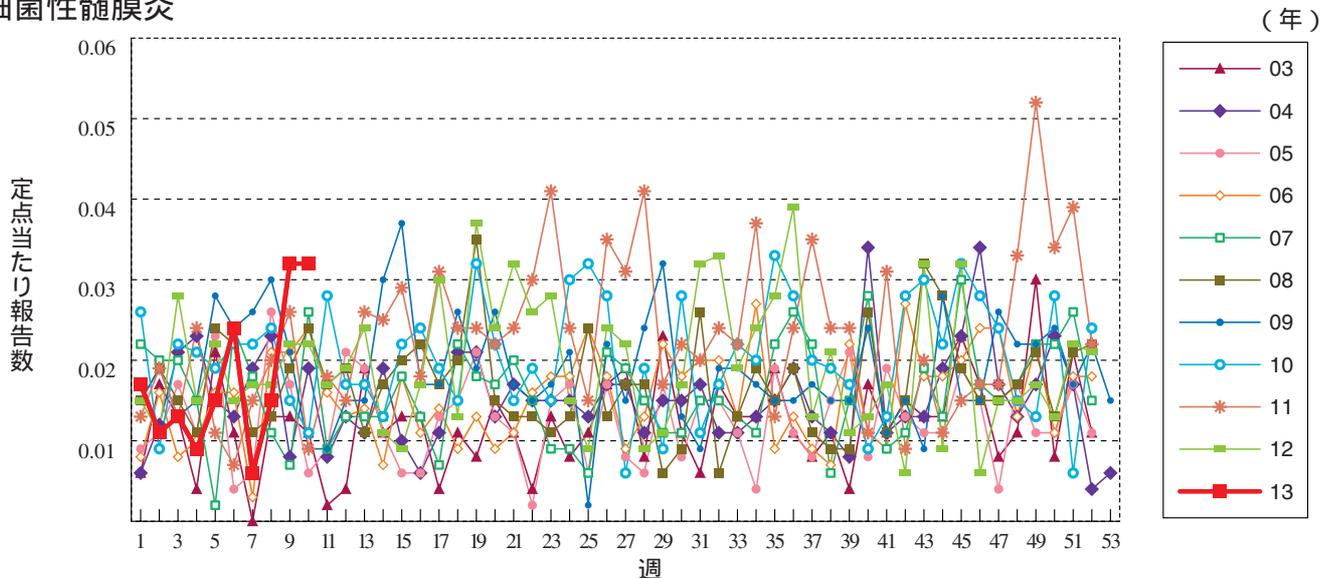
急性出血性結膜炎



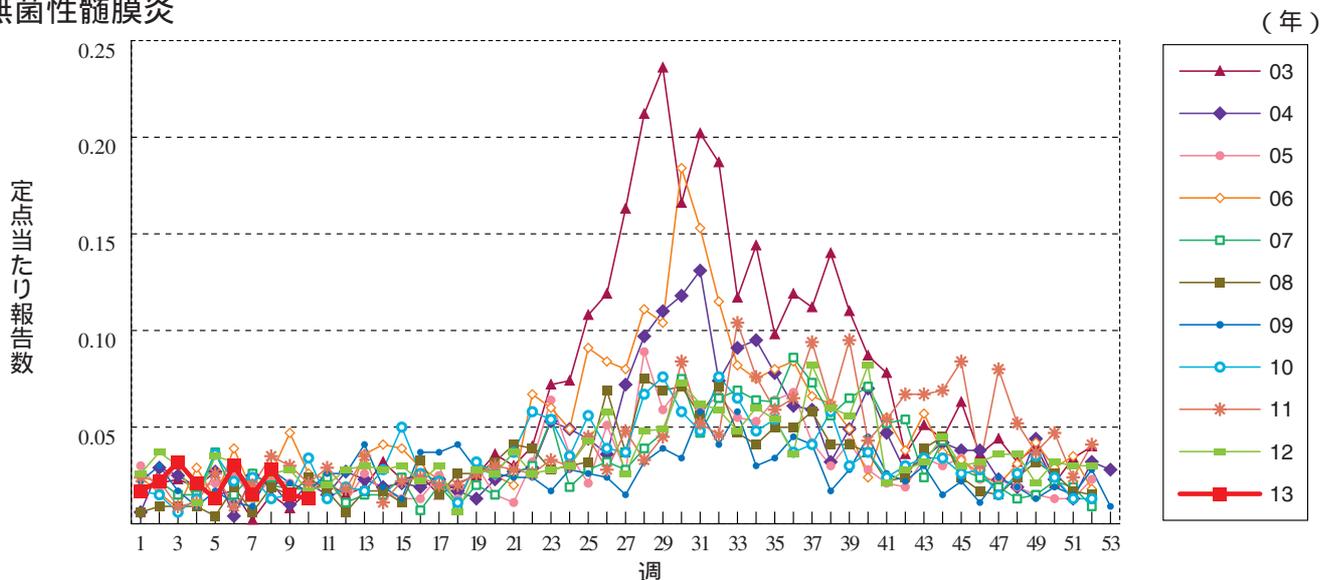
流行性角結膜炎



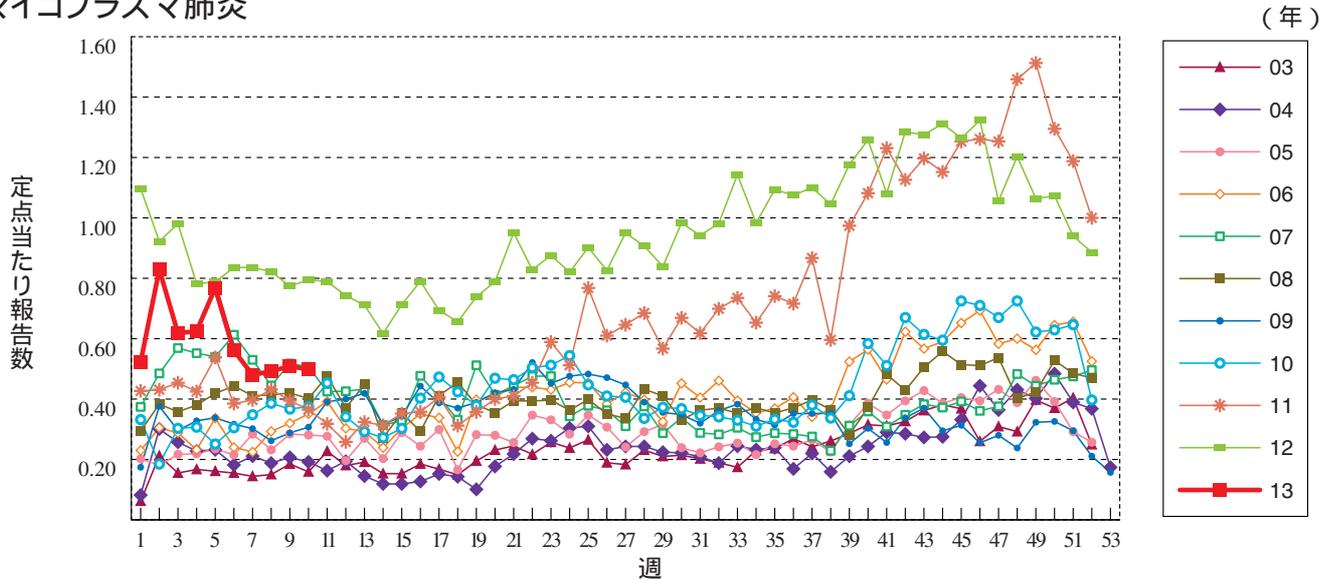
細菌性髄膜炎



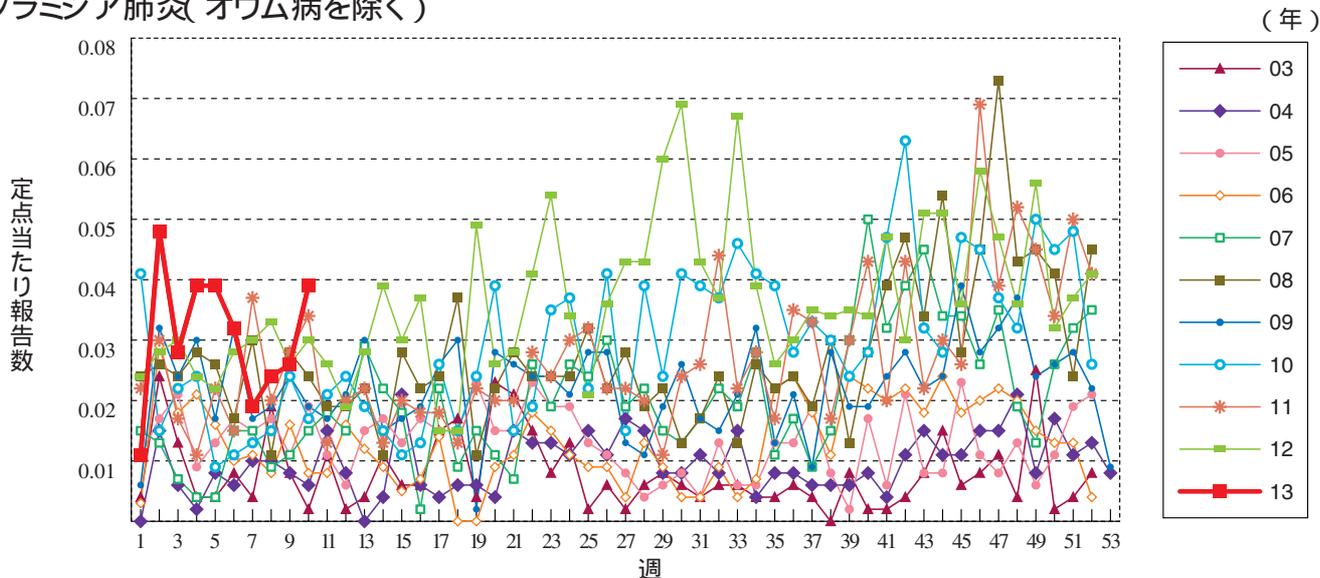
無菌性髄膜炎



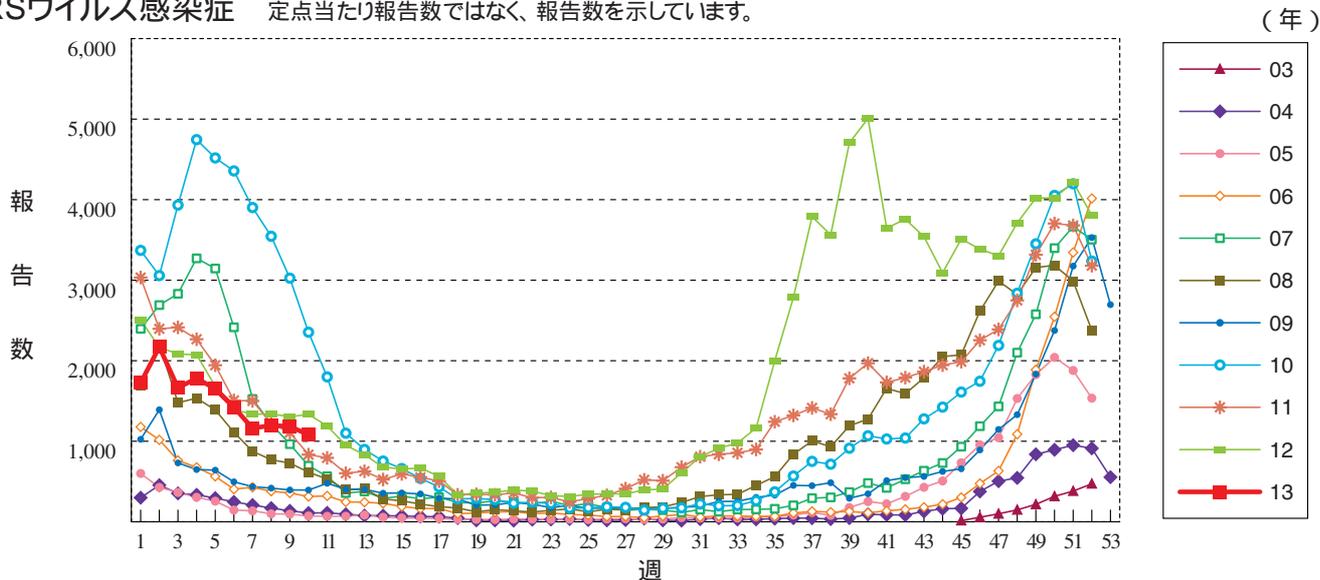
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム病を除く)



RSウイルス感染症 定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。





10週のデータ

注) 表中の報告数は3月13日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。
 新型インフルエンザは掲載していません。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年10週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		痘 瘡		南米出血熱		ペ スト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		結 核	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	335	4244
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	113
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	54
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	35
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	50
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	26
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	57
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	49
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	89
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	52
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	32
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	194
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	184
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	676
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	269
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	67
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	29
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	30
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	27
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	54
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	69
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	112
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	299
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	47
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	48
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	88
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34	336
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	179
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	49
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	72
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	22
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	45
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	93
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	32
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	24
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	210
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	49
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	49
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	47
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	40
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年10週

	ジフテリア		重症急性 呼吸器症候群*		鳥インフル エンザ(H5N1)		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性 大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		E型肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	5	21	14	126	3	12	-	6	1	21
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	7
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	-	1	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	10	2	5	-	2	-	7
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	5	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	1	-	1	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	1	3	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	1	11	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年10週

	ウエストナイル熱		A型肝炎		エキノコックス症		黄熱		オウム病		オムスク出血熱		回帰熱		キャサナル森林病		Q熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	24	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年10週

	狂犬病		コクシジ オイデス症		サル痘		重症熱性血小板 減少症候群		腎症候性出血熱		西部ウマ脳炎		ダニ媒介脳炎		炭疽		チクングニア熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*鳥インフルエンザ(H5N1)を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年10週

	つつかが虫病		デング熱		東部ウマ脳炎		鳥インフルエンザ*		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	31	4	24	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	2	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年10週

	鼻 疽		ブルセラ症		ペネズエラ ウマ脳炎		ヘンドラウイルス 感染症		発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年10週

	リッサウイルス感染症		リフトバレー熱		類鼻疽		レジオネラ症		レプトスピラ症		ロッキー山紅斑熱		アメーバ赤痢		ウイルス性肝炎*		急性脳炎**	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	2	13	137	-	1	-	-	14	176	1	40	3	94
北海道	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	1	-	-	1	6
青森県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	2	4	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	1	-	-	1	10
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	9
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5	-	1	1	7
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	4	13	-	-	-	7
東京都	-	-	-	-	-	1	1	13	-	-	-	-	2	35	-	12	-	9
神奈川県	-	-	-	-	-	-	1	6	-	1	-	-	2	23	1	7	-	3
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	6	-	-	-	3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	4	-	1	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1	4	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	1	13	-	1	-	9
三重県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3	-	3	-	2
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	14	-	4	-	8
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	9	-	4	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	1	9	-	1	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年10週

	クリプトスピリジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	2	30	4	41	12	223	1	11	-	-	1	2	15	162	1	12
北海道	-	-	-	-	-	1	1	5	-	1	-	-	-	-	-	6	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	1	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1
埼玉県	-	-	-	1	-	-	1	10	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-
千葉県	-	-	-	1	1	3	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-
東京都	-	-	-	3	-	5	4	63	1	3	-	-	-	-	8	51	-	2
神奈川県	-	-	-	2	-	3	2	16	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1
岐阜県	-	-	-	1	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
静岡県	-	-	-	1	1	1	-	9	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
愛知県	-	-	-	4	-	2	-	10	-	-	-	-	1	1	-	6	-	-
三重県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
大阪府	-	-	-	3	-	1	2	23	-	-	-	-	-	1	3	26	-	1
兵庫県	-	-	1	2	-	4	-	8	-	2	-	-	-	-	-	4	-	1
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	1	-	11	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	3	-	5	-	2	-	-	-	-	1	4	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2
沖縄県	-	-	-	-	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2013年10週

	バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		バンコマイシン耐性 腸球菌感染症		風しん		麻しん	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	2	21	241	1656	12	60
北海道	-	-	-	1	2	10	-	-
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	1	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	3	-	1
茨城県	-	-	1	1	-	20	-	-
栃木県	-	-	-	-	2	11	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	9	-	-
埼玉県	-	-	-	2	12	132	2	6
千葉県	-	-	-	-	27	139	-	8
東京都	-	-	-	4	93	755	2	19
神奈川県	-	-	1	1	26	205	4	15
新潟県	-	-	-	-	2	6	-	-
富山県	-	-	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	2	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	4	-	-
長野県	-	-	-	-	-	7	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	9	23	-	-
愛知県	-	-	-	5	2	36	2	3
三重県	-	-	-	-	1	8	-	1
滋賀県	-	-	-	-	1	1	-	1
京都府	-	-	-	-	2	7	-	1
大阪府	-	-	-	4	19	97	2	2
兵庫県	-	-	-	-	20	94	-	2
奈良県	-	-	-	-	2	4	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	3	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	8	-	-
広島県	-	-	-	-	1	6	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	1	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	1	4	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	2	2	16	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	1	3	6	-	-
大分県	-	-	-	-	-	6	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	3	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	11	17	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	3	-	-

*鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2013年10週

	インフルエンザ*		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん	
	報告数	定点当り	報告数	報告数	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	51190	10.37	1081	1000	0.32	7453	2.37	32737	10.39	3864	1.23	629	0.20	169	0.05	1514	0.48	
北海道	1214	5.35	48	59	0.41	561	3.92	507	3.55	127	0.89	3	0.02	2	0.01	54	0.38	
青森県	453	7.08	7	4	0.10	69	1.68	243	5.93	17	0.41	3	0.07	3	0.07	13	0.32	
岩手県	605	9.45	3	4	0.10	82	2.05	313	7.83	23	0.58	1	0.03	7	0.18	8	0.20	
宮城県	561	6.03	13	24	0.41	175	3.02	551	9.50	81	1.40	9	0.16	6	0.10	26	0.45	
秋田県	581	10.56	6	9	0.26	58	1.66	194	5.54	16	0.46	-	-	-	-	11	0.31	
山形県	326	6.79	5	29	0.97	170	5.67	316	10.53	36	1.20	2	0.07	1	0.03	20	0.67	
福島県	485	6.38	22	4	0.09	140	3.11	352	7.82	36	0.80	7	0.16	1	0.02	21	0.47	
茨城県	646	5.38	14	24	0.32	147	1.96	709	9.45	43	0.57	16	0.21	3	0.04	21	0.28	
栃木県	376	5.01	2	4	0.09	91	1.94	371	7.89	70	1.49	9	0.19	1	0.02	23	0.49	
群馬県	402	4.10	19	3	0.05	90	1.50	748	12.47	65	1.08	11	0.18	1	0.02	27	0.45	
埼玉県	1152	4.70	19	34	0.22	451	2.87	2248	14.32	174	1.11	13	0.08	7	0.04	90	0.57	
千葉県	1154	5.50	20	37	0.28	511	3.87	1430	10.83	141	1.07	3	0.02	11	0.08	48	0.36	
東京都	1471	3.54	34	75	0.29	720	2.74	3098	11.78	199	0.76	19	0.07	24	0.09	158	0.60	
神奈川県	1751	5.32	37	38	0.19	469	2.29	2035	9.93	206	1.00	17	0.08	8	0.04	111	0.54	
新潟県	667	7.02	8	21	0.35	265	4.42	492	8.20	75	1.25	56	0.93	12	0.20	29	0.48	
富山県	625	13.02	2	20	0.69	143	4.93	256	8.83	29	1.00	2	0.07	12	0.41	15	0.52	
石川県	859	17.90	5	11	0.38	238	8.21	233	8.03	50	1.72	26	0.90	-	-	13	0.45	
福井県	684	21.38	3	16	0.73	97	4.41	385	17.50	34	1.55	-	-	-	-	10	0.45	
山梨県	382	9.55	1	4	0.17	37	1.54	175	7.29	12	0.50	1	0.04	1	0.04	4	0.17	
長野県	1269	14.59	23	4	0.07	164	3.04	664	12.30	40	0.74	3	0.06	5	0.09	27	0.50	
岐阜県	1737	19.97	7	20	0.38	87	1.64	500	9.43	44	0.83	7	0.13	-	-	16	0.30	
静岡県	2129	15.32	44	31	0.35	120	1.35	816	9.17	69	0.78	23	0.26	3	0.03	51	0.57	
愛知県	5317	27.27	54	40	0.22	196	1.08	2073	11.45	126	0.70	21	0.12	9	0.05	77	0.43	
三重県	1196	16.61	27	13	0.29	50	1.11	532	11.82	42	0.93	9	0.20	2	0.04	31	0.69	
滋賀県	907	17.11	8	2	0.06	57	1.78	275	8.59	48	1.50	12	0.38	5	0.16	11	0.34	
京都府	1334	11.02	5	5	0.07	151	2.07	555	7.60	74	1.01	1	0.01	4	0.05	20	0.27	
大阪府	2633	8.52	95	52	0.26	443	2.22	1886	9.43	255	1.28	27	0.14	1	0.01	79	0.40	
兵庫県	2005	10.03	29	73	0.57	187	1.45	1752	13.58	167	1.29	4	0.03	7	0.05	56	0.43	
奈良県	540	9.82	16	13	0.37	37	1.06	235	6.71	21	0.60	1	0.03	-	-	10	0.29	
和歌山県	743	14.86	15	3	0.10	22	0.71	205	6.61	34	1.10	2	0.06	-	-	12	0.39	
鳥取県	337	11.62	2	4	0.21	108	5.68	150	7.89	35	1.84	4	0.21	4	0.21	3	0.16	
島根県	493	12.97	7	2	0.09	24	1.04	293	12.74	23	1.00	22	0.96	-	-	14	0.61	
岡山県	1001	11.92	10	10	0.19	51	0.94	538	9.96	45	0.83	6	0.11	-	-	31	0.57	
広島県	2376	20.66	52	28	0.39	116	1.61	641	8.90	76	1.06	14	0.19	5	0.07	29	0.40	
山口県	1317	19.09	40	7	0.15	133	2.77	464	9.67	115	2.40	2	0.04	2	0.04	39	0.81	
徳島県	797	20.97	13	2	0.09	26	1.13	283	12.30	25	1.09	-	-	1	0.04	21	0.91	
香川県	557	11.37	5	9	0.30	26	0.87	291	9.70	30	1.00	-	-	-	-	14	0.47	
愛媛県	839	13.75	18	3	0.08	63	1.70	418	11.30	74	2.00	-	-	2	0.05	19	0.51	
高知県	949	19.77	26	5	0.17	27	0.90	281	9.37	43	1.43	3	0.10	1	0.03	9	0.30	
福岡県	2301	11.62	100	93	0.78	364	3.03	1778	14.82	283	2.36	165	1.38	2	0.02	69	0.58	
佐賀県	258	6.62	22	26	1.13	42	1.83	230	10.00	43	1.87	4	0.17	1	0.04	12	0.52	
長崎県	792	11.31	6	19	0.43	66	1.50	439	9.98	84	1.91	3	0.07	1	0.02	27	0.61	
熊本県	1001	12.51	22	20	0.40	122	2.44	802	16.04	121	2.42	12	0.24	1	0.02	38	0.76	
大分県	433	7.47	28	28	0.78	57	1.58	614	17.06	124	3.44	26	0.72	5	0.14	25	0.69	
宮崎県	925	15.68	46	37	1.03	91	2.53	555	15.42	137	3.81	-	-	5	0.14	33	0.92	
鹿児島県	1961	21.09	69	24	0.44	77	1.40	679	12.35	131	2.38	3	0.05	3	0.05	26	0.47	
沖縄県	649	11.19	24	7	0.21	32	0.94	132	3.88	121	3.56	57	1.68	-	-	13	0.38	

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2013年10週

	百日咳		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	35	0.01	73	0.02	779	0.25	20	0.03	326	0.48	15	0.03	6	0.01	231	0.50	18	0.04
北海道	-	-	1	0.01	11	0.08	-	-	4	0.14	-	-	-	-	6	0.26	-	-
青森県	-	-	-	-	11	0.27	-	-	1	0.09	-	-	-	-	7	1.17	-	-
岩手県	-	-	-	-	26	0.65	-	-	5	0.38	1	0.05	-	-	21	1.11	-	-
宮城県	-	-	2	0.03	27	0.47	-	-	1	0.08	-	-	-	-	19	1.58	1	0.08
秋田県	1	0.03	-	-	32	0.91	-	-	1	0.14	-	-	-	-	4	0.50	-	-
山形県	-	-	-	-	42	1.40	-	-	2	0.25	-	-	1	0.10	2	0.20	-	-
福島県	1	0.02	-	-	17	0.38	1	0.08	2	0.17	-	-	-	-	5	0.71	1	0.14
茨城県	-	-	1	0.01	10	0.13	1	0.06	18	1.06	-	-	-	-	4	0.31	-	-
栃木県	-	-	-	-	8	0.17	-	-	8	0.67	-	-	-	-	8	1.14	4	0.57
群馬県	-	-	2	0.03	16	0.27	-	-	10	0.71	-	-	1	0.13	4	0.50	-	-
埼玉県	-	-	3	0.02	40	0.25	2	0.05	13	0.31	-	-	-	-	17	1.89	-	-
千葉県	-	-	1	0.01	31	0.23	1	0.03	19	0.59	1	0.11	1	0.11	4	0.44	2	0.22
東京都	3	0.01	5	0.02	68	0.26	-	-	8	0.22	1	0.05	1	0.05	7	0.32	-	-
神奈川県	2	0.01	2	0.01	50	0.24	-	-	40	0.93	-	-	-	-	3	0.38	-	-
新潟県	4	0.07	4	0.07	3	0.05	2	0.20	13	1.30	-	-	-	-	4	0.31	1	0.08
富山県	-	-	-	-	2	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.60	-	-
石川県	-	-	-	-	7	0.24	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.60	-	-
福井県	3	0.14	-	-	25	1.14	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17	-	-
山梨県	-	-	-	-	1	0.04	-	-	2	0.22	-	-	-	-	2	0.20	-	-
長野県	-	-	-	-	1	0.02	1	0.09	4	0.36	-	-	-	-	5	0.45	-	-
岐阜県	1	0.02	-	-	18	0.34	-	-	6	0.55	2	0.40	-	-	3	0.60	-	-
静岡県	1	0.01	2	0.02	21	0.24	-	-	8	0.36	-	-	-	-	8	0.80	3	0.30
愛知県	-	-	1	0.01	39	0.22	-	-	9	0.26	3	0.21	-	-	6	0.43	-	-
三重県	-	-	-	-	20	0.44	-	-	1	0.08	-	-	-	-	2	0.22	-	-
滋賀県	-	-	1	0.03	3	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.71	-	-
京都府	-	-	1	0.01	11	0.15	-	-	3	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	6	0.03	7	0.04	29	0.15	-	-	12	0.23	-	-	-	-	7	0.41	-	-
兵庫県	2	0.02	5	0.04	11	0.09	-	-	15	0.43	-	-	-	-	6	0.55	-	-
奈良県	-	-	-	-	6	0.17	-	-	3	0.33	1	0.17	-	-	1	0.17	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	0.03	1	0.25	-	-	-	-	-	-	2	0.18	-	-
鳥取県	-	-	-	-	3	0.16	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	1	0.04	1	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.13	-	-
岡山県	-	-	-	-	3	0.06	2	0.17	5	0.42	1	0.20	-	-	4	0.80	2	0.40
広島県	3	0.04	-	-	3	0.04	-	-	8	0.42	1	0.05	-	-	1	0.05	-	-
山口県	-	-	-	-	10	0.21	-	-	3	0.33	-	-	-	-	7	0.78	-	-
徳島県	-	-	-	-	3	0.13	-	-	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	3	0.10	-	-	2	0.67	-	-	-	-	2	0.40	1	0.20
愛媛県	3	0.08	-	-	9	0.24	-	-	20	2.50	-	-	-	-	2	0.33	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.13	-	-	8	1.00	1	0.13
福岡県	3	0.03	8	0.07	49	0.41	-	-	7	0.27	1	0.07	1	0.07	3	0.20	2	0.13
佐賀県	-	-	1	0.04	7	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67	-	-
長崎県	1	0.02	21	0.48	32	0.73	3	0.38	2	0.25	-	-	-	-	4	0.33	-	-
熊本県	-	-	1	0.02	10	0.20	-	-	13	1.44	-	-	-	-	1	0.07	-	-
大分県	1	0.03	-	-	20	0.56	-	-	2	0.40	-	-	-	-	8	0.73	-	-
宮崎県	-	-	1	0.03	13	0.36	-	-	17	2.83	1	0.14	-	-	1	0.14	-	-
鹿児島県	-	-	1	0.02	13	0.24	-	-	10	1.43	-	-	1	0.08	10	0.83	-	-
沖縄県	-	-	1	0.03	13	0.38	6	0.60	28	2.80	-	-	-	-	6	0.86	-	-

報告数・疾病・都道府県別
 2013年10週

	インフルエンザ (入院患者)
	報告数
総 数	433
北海道	7
青森県	4
岩手県	18
宮城県	5
秋田県	24
山形県	7
福島県	5
茨城県	12
栃木県	10
群馬県	9
埼玉県	7
千葉県	13
東京都	4
神奈川県	13
新潟県	7
富山県	10
石川県	10
福井県	11
山梨県	5
長野県	10
岐阜県	9
静岡県	2
愛知県	31
三重県	5
滋賀県	8
京都府	8
大阪府	16
兵庫県	9
奈良県	5
和歌山県	7
鳥取県	9
島根県	16
岡山県	6
広島県	13
山口県	10
徳島県	10
香川県	-
愛媛県	5
高知県	13
福岡県	9
佐賀県	7
長崎県	2
熊本県	19
大分県	6
宮崎県	2
鹿児島県	5
沖縄県	10

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

注 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年10週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群(SARS)						結核		鳥インフルエンザ(H5N1)		細菌性赤痢	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		サル		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2013年10週

	ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	鳥類		犬	
	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-

感染症週報 第15巻 第10号 2013年3月25日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>
 < 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
 < 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
 < 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。